



5

景観形成実現化にむけて：要素

1. 色彩
2. 緑
3. サイン
4. ストリートアート・ストリートファニチャー

いきいきとした魅力あふれる公共空間をつくる

地域らしさの表現に寄与する

公共空間に秩序と変化を演出する

1 景観づくりと色彩計画 ～色彩決定の基本項目～

景観づくりにおける色彩の役割

近年、快適で好ましい景観づくりへの要望がおおいに高まりをみせている。都市のインフラ整備も量的充足から質的な向上が強く求められる第2段階、すなわち人間と環境のより良い調和を演出する総合的なデザインが要求されるというべき時代を迎えている。

景観はそこに住む人々の生活意識や文化を反映したものだといえ、結果として必然的に出来上がってくるものであるから、意識的につくらなくても自然発生的に出来上がってしまう。景観に関わる色彩も同様で、無秩序に放置すれば（歓楽街の屋外看板を例に引くまでもなく）主張ばかりが目立つ混乱状態の色彩景観が形成される。このような状況から脱するには人間の自律的な行動が必要となり、景観づくりという行為の必然性が生まれてくる。

都市は巨大なスケールの構造物が囲み囲まれる多種多様なシーンの集積といえ、構造物の色彩は図色＝フィギアカラー（囲まれる色、対象の色…例えば橋の色）と地色＝グラウンドカラー（囲む色、背景の色…例えば山の色）との相互関係によって美醜が判断される。

ところが、景観の色彩をより大きな視点で観察すると、厄介なことに図と地が反転する。

山などの自然景観を背景とするときは橋は図色でありながら、これを渡る車両にとっては橋自体が今度は地色となってくる。

この様に、都市の構造物は景観要素間で複雑に反転を繰り返すので、各々の在り方を注意深く観察し、その在り方を明確にすることによって、見え方を色彩でコントロールする必要がある。つまり、自然に埋没させていく「消去」や適度な調和を図る「融和」の手法を取ったり、シンボリックな存在として「強調」したりする。

景観を構成するものには全て色彩がつきまとう。優れた色彩景観をつくるには、地域全体の景観要素を整理し、色彩的特徴を総合的に捕らえておく必要がある。

景観づくりにおいて色彩は基本的な要素であり、しかも周囲に与える影響は少なくないので、色彩決定にあたっては地域の特性や景観要素相互の関係を十分に把握し、より好ましい見え方を演出することが重要である。

ある対象を自然や都市景観の中に組み込むとき、色彩相互の関係を十分に把握・検討し色彩による景観の秩序だてを計画的に進めていくプロセスを「色彩計画」という。

色彩計画には地域全体を対象とするものと単体の構造物などを対象にしたものがある。

地域全体を対象とする場合は、それぞれの地域が持つ性格に応じて色彩を検討すると、まとまりのある色彩景観の形成が得やすい。

次頁以下は都市部における色彩計画を遂行するにあたって、対象の分類例や基本的な検討項目、進め方のプロセスおよびその留意点などをまとめたものである。

要点は建設省都市局／都市空間・色彩計画に関する調査検討報告書本編（平成6年3月）から抜粋した。

1. 色彩計画の対象

●都市における性格別の代表的な地区分け

- ・駅前地区
- ・商店街、商業地区
- ・行政、オフィス地区
- ・歴史的地区
- ・低層戸建住宅地区
- ・中高層集合住宅地区
- ・工業地区
- ・港湾地区
- ・河川沿岸
- ・幹線道路沿道
- ・公園広場
- ・農山村集落地区
- ・リゾート地区
- ・自然地内
- ・その他

この他に、単体の対象物として色彩計画を立案することが必要で、例えば以下のような分類が考えられる。

●単体の対象物の例

- ・建物の外装―外壁、屋根など
- ・街路、広場の舗装
- ・屋外広告物
- ・橋、歩道橋などの工作物
- ・その他

2. 色彩計画のための検討項目

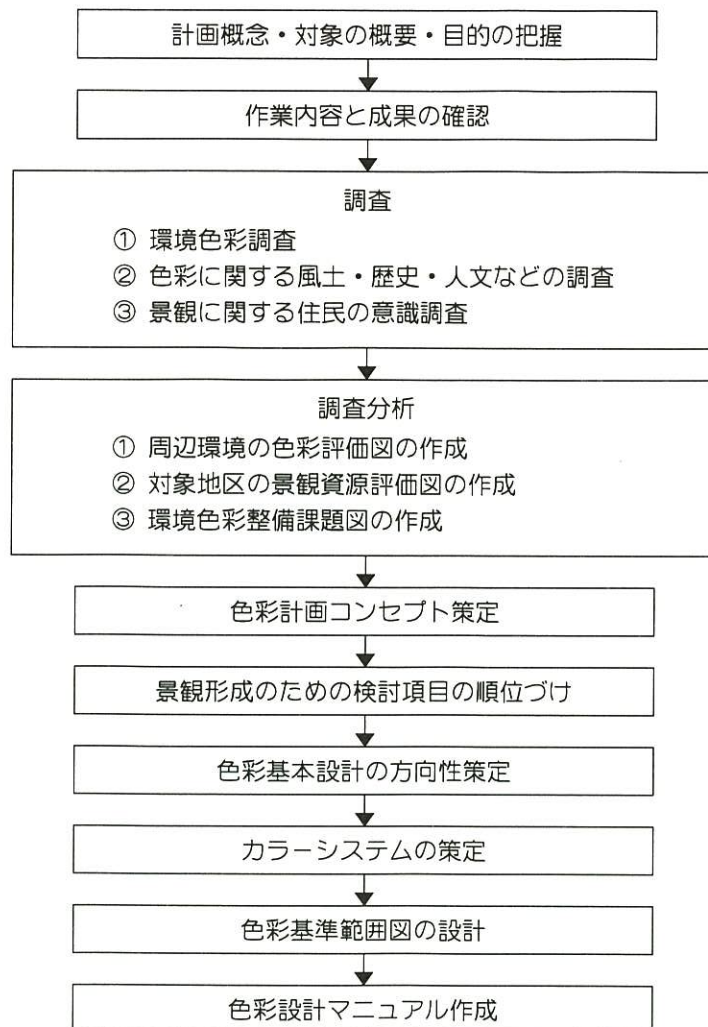
岸和田市のより良い景観をつくるために、色彩計画に際して基本的に留意しなければならない主要な項目を以下にまとめた。すべての地区に、すべての項目を均等に検討する必要はないので、その地区の特性や色彩計画のコンセプトに合わせて重要度のランクづけを行い、その順に検討し考慮するとよい。表には項目と関係する計画上の手法を示している。この項目は色彩の基本計画においても実施計画においても同じものを用いるとよい。

色 彩 設 計 の 主 要 検 討 項 目	
1) 景観要素の色彩を整理する	① 色彩の面積効果を考慮し、誘目性の順位付けを行う ② 都市景観の中で、大きな面積を占めるものには基本的に低彩度色を使う
2) 調和のとれた、連続性のある街なみをつくる	① 街なみの色彩は類似調和、色相調和、トーン調和を基本とする ② 隣接する建物相互の色の差は小さくし、連続性をつくりだす ③ 舗装材の色調をそろえ連続性をつくりだす ④ 街路樹や生け垣の緑により連続性をつくりだす
3) 自然（景観）の色に配慮する	① 人工物の色彩は植物の緑の鮮やかさを越えない範囲とする ② 基本的に自然の緑の量を増やす
4) カラーイメージを活かす	① 街づくりコンセプトと整合性のある色彩を選ぶ ② テーマカラーはアクセントとして小面積で使用する
5) 素材の色を活かす	① なるべく自然の材料を利用する ② 地場の素材を利用して地域の個性をつくる ③ 素材は素材のままで使う
6) 地域に蓄積された色彩を活かす	① 地場で伝統的に使われてきた色彩、配色、素材の組み合わせなどを活用する ② その地域を特徴付けている色彩を活かす
7) 形態感、素材感に合った色使いをする	① 形態感を無視した色分けはしない ② 素材の特長を活かした色使いをする
8) 新しい色彩景観をつくりだす	① 既成概念にとらわれすぎないで、創造的な色使いをする ② 新しい色彩表現の可能性を追及する
9) まちの賑わいをつくる	① 建物の低層部には賑わいを演出する色使いも考慮する ② 季節感を彩る祭事の色を演出する ③ 賑わいをつくるための流行色は取換えやすい部分に使用する
10) 騒色を取り除く	① 屋外広告物に使われているの高彩度色を整理する ② 建築物の形態に合わせたサインのあり方を考える ③ 彩度の高いサインカラーは集約する

3. 色彩計画の進め方

3-1. 色彩基本計画

色彩基本計画のプロセス



上記に挙げた色彩基本計画の作業の中心となるのが次のプロセスである。

(1) 方向性の策定

調査分析の結果を基礎にして色彩計画の方向性を決める。

a. 景観資源評価図

まちなみづくりに役立つモチーフを示す景観資源、例えば伝統的な建造物、名所旧跡、旧くから行われている祭事などを一覧表にして方向性策定に利用する。

b. 景観色彩整備課題図

景観づくりで色彩に関係する代表的な問題点を課題図化し、それらを解決するための方向性を策定する。

(2) カラーシステム

色彩計画の対象別—建物とその部位、街路とその部位、植栽などについての骨組みを考える作業で、個々にはメインカラー、サブカラー、アクセントカラーなどの構成が一般的である。それに具体的な色彩、

色彩の範囲、配色などを当てはめてゆくとカラーシステムが出来上がることになる。一覧表にすると判りやすい。

(3) 色彩基準範囲図

この作業は具体的な色彩設計あるいはカラーデザインにあたる。

基本計画段階では一つの色度をもつ色彩に絞り込むのではなく、ある程度の自由度をもたせた色彩の範囲で決めることが望ましい。建築の仕上げ材料によって、或いは対象の規模や形によって、色彩の調整が必要となるからである。

色彩の範囲の示し方の例を以下に挙げる。

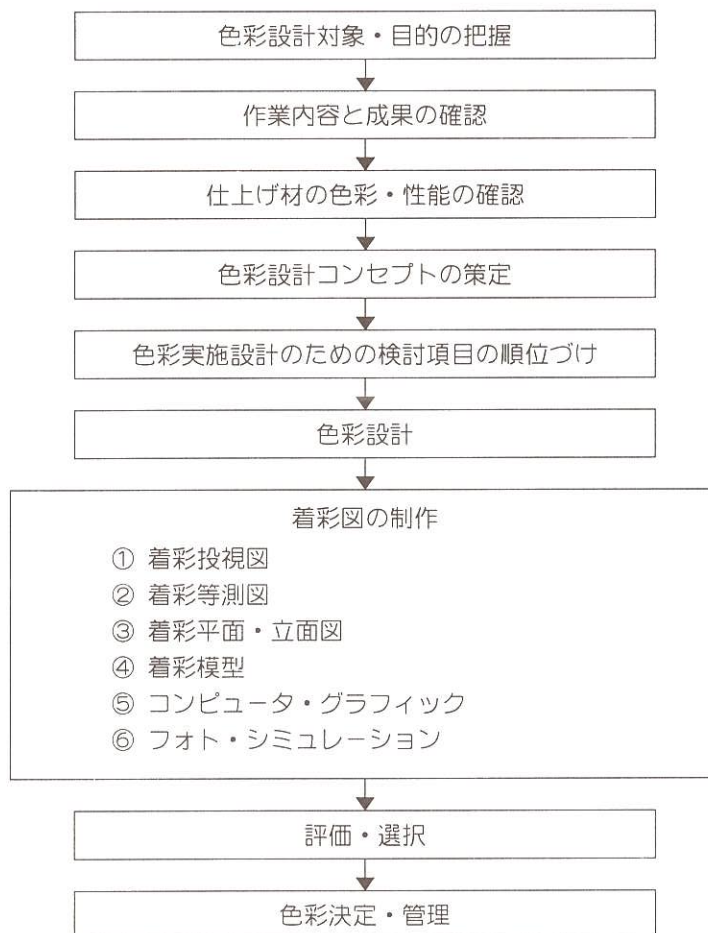
- a. 色彩の三属性（色相・明度・彩度）の範囲の組合わせによるもの
- b. 色相範囲とトーンの組合わせによるもの
- c. 色名による範囲
- d. 色の変化の幅が少ない建材、土木素材などの仕上げ材による範囲

(4) 色彩設計マニュアル

色彩基本計画の内容をカラーシステムを中心に手引書の形にまとめ、まちづくりや景観づくりに関わる人々に役立つものにしておく。

3-2. 色彩実施計画

色彩実施計画のプロセス図



前頁の色彩実施計画のプロセス図は、前述の色彩基本計画に連続して色彩実施計画を行う場合のものである。しかし、色彩設計マニュアルもなく建物や街路のための色彩実施計画を独立して行う場合は、色彩基本計画のプロセスをその規模を縮小した形で行う必要がある。

その際、環境色彩調査の他に仕上げ材料のチェックや色彩設計の方向性（コンセプト）策定は重要である。

なお、前頁の色彩実施計画プロセスのうち作業の中心となるものを以下にまとめた。

(1) 仕上げ材料の色彩検討

建物や街路の色彩計画に使用する仕上げ材料の色彩範囲は、主として色の耐久性とコストなどの面からチェックする必要がある。例えば、天然石の色彩の範囲などはよく使われる材料だけにチェックしておく必要がある。

自由に色が出せる塗料などの場合は耐久性を重視しなければならない。

(2) 色彩設計のコンセプト（方向性）の策定

色彩設計マニュアルが存在する場合はそれに従えばよいが、無い場合は設計課題をもとに色彩設計のコンセプト策定を行う。

また、色彩設計にあたって留意すべき検討項目を前述の項目表に従い、対象物に則して検討を行う。コンセプトと検討項目と仕上げ材料の制約を前提条件として、色彩設計の作業に移る。

(3) 色彩設計

色彩実施設計は色彩設計コンセプト、色彩調和の原則を踏まえて行なう。

前項までで検討の方向性がかなり絞り込まれているので、検討案は多数作成する必要はなく、複数案を作る場合も変化の振幅は小さくてよい。

色彩設計はデザインの領域の仕事であるため、これまで道筋を追って構成してきたものを基本にしながらも、感覚的な力量が要求される。

建物や街路などは一度つくってしまうと長い年月変えることができないもので、多くの人々が日常接するものであることから公共性の高いデザイン対象といえる。

(4) 着彩図

色彩設計の結果を見やすいかたちに表現し、評価を行うために着彩図を作る必要がある。

描写法には

- a. 着彩投視図
- b. 着彩等測図
- c. 着彩平、立面図
- d. 着彩模型

などがあり、これらの選択はケースによって行なうとよい。

コンピュータ・グラフィックはソフトの充実やハードコピーの高品質化が著しく、今後益々普及するものと思われる。

1 要素：色彩

1. 色彩デザインの位置づけ

■都市の色彩の問題点と色彩の役割

◇かつて、限られた建築技術、限られた地場の材料のなかで形態的、色彩的にも自然に調和のとれたまちなみが形成されました。

◇近代以降、建築技術の発達により、建築物は巨大化、高層化し、施設の彩色面積はおおくなり、また、外観も人工素材の多様化、塗料の仕上げにより、質感による表現に頼れなくなりました。つまり、施設の計画にあたっては「色彩の決定」という段階を踏まざるをえません。

都市景観形成の上では、この色彩決定の段階でこれまで個別の事業毎に各担当者が各自で判断してきたものを総合的な意図に沿ってどう解釈するか、どう判断するかという客観的な基準が必要になります。

◇また、都市には建築物のほかに、道路やサイン、橋や看板、自然など様々な色彩があります。人々はこれらを様々な視線で総合的に見て都市景観を判断します。

今日、都市の色彩景観はひどい、といわれるのはこれらの都市の環境要素の色彩を総合的に調整してこなかったからと言えます。色彩デザインは都市、建築、道路、公園、土木などすべての都市の環境要素のコーディネーターとなっていく必要があります。

■都市景観形成に寄与する色彩デザインの考え方

◇色彩は都市イメージの形成に大きな影響を与えます。色彩の氾濫、混在は落ち着かない、まとまりのない、雑然とした都市イメージを人々に感じさせます。

◇よりよい色彩景観とは色彩が目立って何かを主張するものではありません。まちなみがある一定のベーシックな色のグループで収まり、あるトーンで微妙な変化をすると、まちの雰囲気よさ、印象のよさが醸し出してくるものです。こういったまちなみが「落ち着きのある美しいまちなみ」「快適で秩序あるまちなみ」というイメージをもつことができます。「色彩」がそれ自身、無意味に主張しないのがまちなみのよい色彩と言えます。

◇色彩デザインとは単にまち全体をひとつの色に揃えるということではありません。一色に揃えればたしかに整然としますが面白くない、単調なイメージになります。しかし色彩にある一定の範囲の中で適度な変化をもたせれば賑わいとその地域らしさを演出することができます。

◇歩行者の視線ではたのしさ、賑わい、といったものも色彩デザインで担っていく必要があります。つまり、まちのイメージの演出、アイデンティティの表現をしていくことです。これらを実現するには明確なまちづくりのポリシーが必要になります。

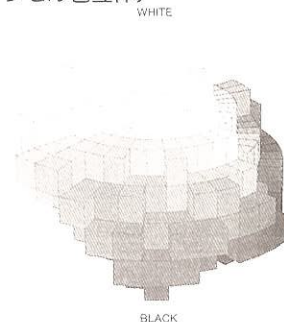
色彩の基本事項

職員は理解し、共通認識とする

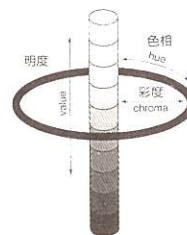
①色彩表示の統一化、数値化

◆JIS規格の三属性（マンセル表色系）による色彩の伝達、記録、計画、管理

（マンセル色立体）



（マンセル表色系の構造）



出典：「COLOR TEXT I」

◆職員はマンセル表色系（三属性による色の表示方法）を理解し、共通の言葉（マンセル記号）で色彩をイメージできるようにする（マンセル記号）

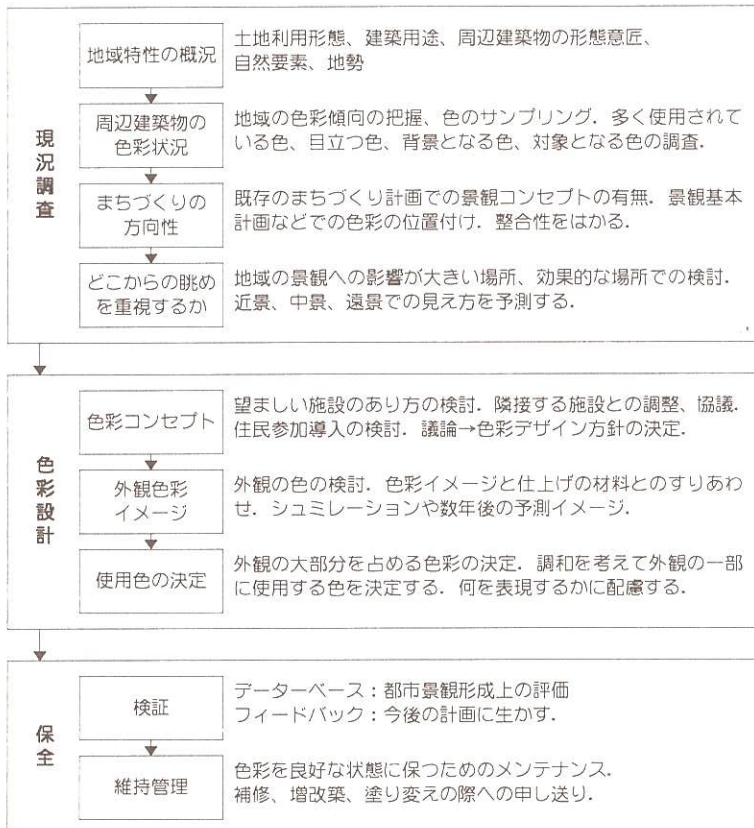
$\frac{7.5R}{\sim}$ $\frac{7}{2}$ (ななてんごアール なな の に)
色相 明度 彩度

出典：「COLOR TEXT I」

3. 施設の色彩設計におけるポイント

■施設の色彩設計の手順

- ◇地域の色彩景観の方針が策定されているエリアについてはその方針に従って、各施設の色彩計画を行なう
- ◇策定されていない場合も、以下のフローを基準に慎重に色彩選定に取り組み、調査・議論の場を持ちながら色彩決定を行なう
- ◇小規模な施設についてはデータをストックすることで現況調査段階の作業を簡略化する



■色で表現するのではなく意匠、素材で表現する

- ◇可能な限り自然素材を使用し、素材で色を表現する
- ◇安易な塗り絵で表現しない、形態のデザインに根拠があり、センスのよい、賢明なデザインを心がける
- ◇素材感と色彩表現とすりあわせて材料を選定する

■自然や緑をひきたてる。効果的なものにする

- ◇樹木などの色よりも彩度を低く押さえる（彩度3以下が賢明）
- ◇塗料や人工素材による擬似自然の表現は避ける。

■歴史を尊重する

- ◇歴史の色、素材、意匠を使用し、塗料などで表現しない

■エイジング、メンテナンスフリー

- ◇時間経過とともに味わいが出てくる自然の素材を使用する
- ◇人工素材は耐久性に優れ、メンテナンスが容易なものを使用する

色彩デザインの基本的考え方

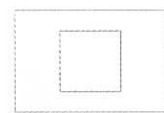
景観形成を目的とした色彩の使い方（色の選び方、効果的な使い方）

①地色と図色の関係デザイン

色彩は隣接し、囲み、囲まれ、相互に影響しあう。景観のあり方（色彩調和のあり方）は景観色（グランドカラー）と、施設色（フィギアカラー）の関係から、以下の3つの手法が考えられる。

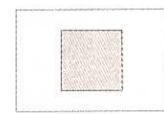
◆消去

背景に対象となる色彩を溶け込ませる



◆融和

背景と対象との間に違和感がないようにさせる



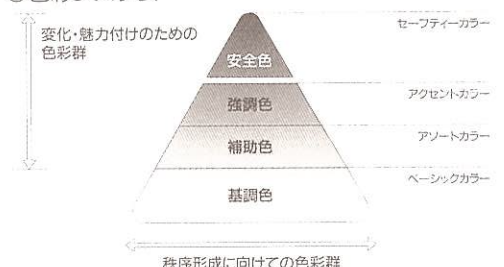
◆強調

背景と対比的に対象の色彩を強調する



出典：「COLOR TEXTⅢ」

②色彩システム



◆秩序形成

デザインしようとする対象には、基調となる色彩がある。大面積はベーシックカラーとしてデザインできる。さらに、基調色のみでは単調になったり、間が抜けたり、デザイン対応が難しい場合、その補助色としてアソートカラーが考えられる。

◆変化と魅力づけ

単調な中にほどよい緊張感をデザインしたり、表情づけに主張や差別化を盛り込みたい時、アクセントカラーを使用する。主と従、静と動など色彩デザインにメリハリを付けるために、小面積に使用する。セーフティーカラーとは言うまでもなく、命にかかわる色彩のメッセージ、最も強い主張色として、適時の使用が考えられる。

出典：「COLOR TEXTⅢ」

■コーポレートカラーとの調和

◇彩度の高い色が使用されている例が多く、使用面積と設置箇所に留意する

◇企業によってまちなみ調和のためのバリエーションを用意している場合もあるので企業側の担当者と十分協議する

■明度と彩度の基準

◇明度：武家屋敷や城の白壁（9.5）～瓦（3.0）

◇彩度：新緑の緑（6）

これらを実際の施設で使用するのは好ましくない

■施設の色が実際どう見えるか想像する

◇色彩の見え方に影響するものを見極め、実際の見え方を予測する

◇時間の変化、方角、四季の変化…うつろう色

■視点と地色（背景色）との関係性に配慮する

◇物と物、物と背景の関係、地と図の逆転に留意する

◇なじませる、めだたせるの判断

◇視点との関係

③色の見え方の段階

建物の高さと色の見え方の関係では、遠景色・中景色・近景色・近接色というレベルごとに、色の見え方に段階・相違がある。

◆遠景色…町を遠くからみる状態で、ランドスケープ・レベルに対応する。このレベルでは低彩度の色差の小さい壁面色は融和して見える。

◆中景色…タウンスケープレベルに対応し、町の中に入って建物を見る状態。ここでは建物と建物の関係の中でも上部間の関係が重要で、低層部分はあまり意識されない。

◆近景色…ストリートスケープ・レベルに対応し、通りを歩いていくときに目に入る低層部やペーヴェメントの色。

◆近接色…建物に入っていく時、エントランスの部分を見る状態。サインカラーの扱いが問題となる。

引用：「景観からのまちづくり」

4. よりよい色彩景観実現のための取り組み

■データベースづくり

◇公共施設の色彩、サンプリングのデータベース化

◇景観資源を抽出し、その色彩を数値でストックする

■幅広い議論、検討

◇都市計画、建築のみならず、土木、公園、企画など幅広いメンバーで検討を行う。また、住民参加で検討していくことも考える。

◇範囲を越える色彩を使用する場合でも、幅広い議論を行うことで採用できることとする。

■フォローとフィードバック

◇施設の色彩をよりよい状態に保つためのメンテナンス

◇補修・改修、増築に際してのフォロー、チェックするしくみ

■色のセンスを磨くこと

◇良いものを理解し良くないものに慣れてしまわない

■景観単位ごとの色彩誘導方針の検討

◇地域の特性を表現し、色彩を整え、望ましい色彩景観をつくるために、地域ごとのめざすべき色彩計画を策定する。

2 公共施設とグリーンスケープ

1 緑の重要性

地球規模のエコロジカルな環境問題において緑が最重要課題になっている。

また、人工化した近代都市においても、緑の必要性が再認識されている。

世界的に見ると、ガーデニングの盛んなイギリスの都市郊外の美しさや花の都パリのマロニエのシャンデリゼ通り、ウィーンの森、ニューヨークのセントラルパークの緑等。これらの緑は多くの市民に愛され支えられている。

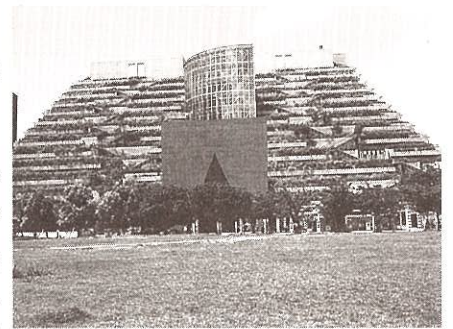
日本においても最近の開発事例のネーミングを見ると、オーサカ・アメニティ・パーク、オーサカ・ガーデンシティ、ビック・パーク・シティ等、施設計画にランドスケープのコンセプトや手法を取り込み、いかに心地良い空間を提供するかに腐心している。

岸和田市はまちづくりの目標と都市像の5本の柱の1つに、豊かな自然に恵まれたまち—庭園都市<ガーデンシティ>を標榜している。

これを実現させるにも緑が重要な要素になっている。

緑の存在は、気象の緩和や大気浄化に効果的であるし、緑は物的環境だけではなく、精神的環境の安定ももたらしてくれる。

そのためには、「緑化」は緑で化かせるのではなく、生命あるものを取り戻し良い環境を形成するもの、また人の心を感動させる緑にしなければならない。



公園と建物の一体化、緑の塔（博多）



緑豊かな首都（ワシントンDC）

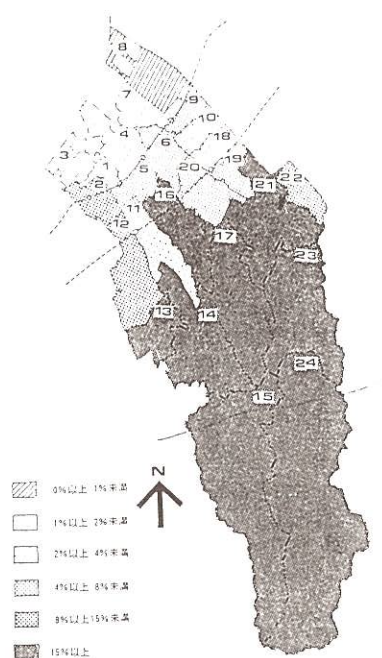
2 岸和田市の骨格と緑の現況

岸和田は内陸部の都市とは異なり、山から丘陵、平野、海と変化に富んだ地形で、さらに多くのため池と3つの主要河川が市の骨格を形成し、それらの上にまちが広がっている。沖積平野に広がる都市と違い緑多きまちをつくるポテンシャルがある。

緑の指標である緑被率は市域全体でみると45.8%であるが市街化区域内は4.9%（果樹園を含むと5.3%）しかない。緑が少ないといわれている大阪市域の緑被率が3.7%で、それと比較すると市街化区域外の緑の存在価値が理解できる。

都市において緑を中心とする自然面と人口面の比率が50%が理想値といわれており、市域全体からするとガーデンシティの雰囲気や資質はあるといえる。

一方、市街地の緑被率は3割が「住みやすさの分岐点」とされており、建設省は市街地における緑地面積の割合を3割以上を目標としている。岸和田市では丘陵の緑を保全しながら、いかに効率よく市街化区域内の緑を育てていくかを考えていかねばならない。



岸和田の緑被率
(JRより海側は緑被率が少ない)

3 緑と景観計画

1) 緑の機能

(1) 緑の本質

緑（樹木）は他の建造物とは違い、生きて成長するという特徴がある。それを緑の本質とすると、自然性、生命性、成長性、非同一性（多様性）といった人工では代替できないものである。

(2) 緑の特質・景観効果

① 街の統一感の醸成

・ 街路

御堂筋のイチヨウ並木、パリのシャンゼリゼ通りのマロニエのように、樹木を連続して植栽するだけで街の統一感が醸成される。

街路照明では、連続させても決してこの味わいは演出できない。

また御堂筋のイチヨウのように変化することは植物の特徴の1つで、話題性にも結びつく。

四季の変化：春・芽吹き 夏・緑陰

秋・紅葉、銀杏 冬・ライトアップ

年月の変化：巨木に成長

- ・ 独立木…ランドマーク的なもの（例）阿間河滝のムクノキ

② 視覚上の緩和

- ・ 都市の人工物のもっている堅さ（直線・矩形）を消す。

（例）街路樹、生垣

- ・ 葉や幹の微妙なテクスチャーの違いで、光や風、雨などにより視覚的に変化し、陰影や奥行き感を出す。

③ 地域性の創出

- ・ 日本…北から南まで細長く植生の違いから景観も異なる。

（例）関東…褐色（落葉：ケヤキ、クヌギ、コナラ）

関西…緑色（常緑：クスノキ、マツ）

- ・ 地域（例）飯田のリンゴ並木

岸和田…和泉・葛城山系、神於山の山並み

（深い緑：スギ、ヒノキ、マツ、ミカン）

岸和田への…桃、ハナモモ等による街路樹（包近付近）

応用 ・ミカンの街路樹（丘陵部）

（農家、農協の管理協力が必要、PRに）

- ・ 市の木クスノキ、市の花バラの街路樹

バラの散策道（だんじり注意、ツバウのトイレ）

- ・ フェニックス、クスノキのゲート部への植栽

(3) 緑の集合化の特徴

- ・ 環境保全
- ・ レクリエーションの場
- ・ 防災

□記憶に残る木々

地域性、個性

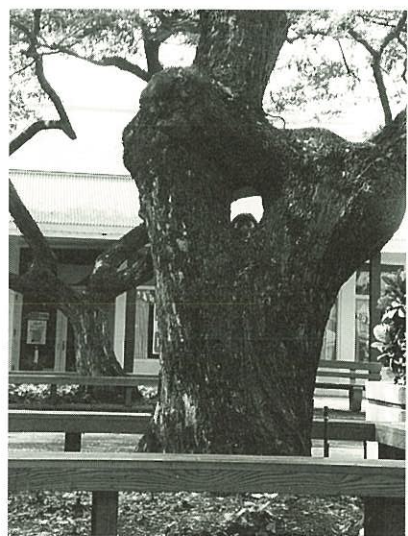
シンボリックに植栽



存在感のあるムクの老木（阿間ヶ滝）



フェニックスのゲート
なぜか岸和田に多く目立つ



ユーモラスな樹形（ハワイ）



地域色のあるクワノキの並木（八王子）

2) 緑を景観に役立たせるには

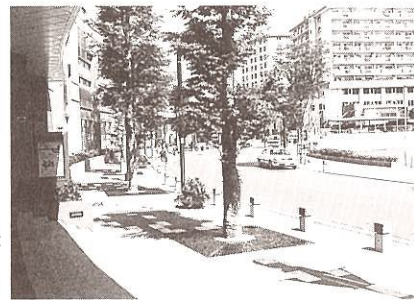
景観とは主として目に映るあらゆるものの全体像をいう。

例えば、街路景観は建物、街路樹、歩道、照明、電柱、電線、看板等で構成され、街並みということで総合的に評価される。

緑についても地域性、エコロジカルな面と合わせて視覚的な配慮が必要になってくる。緑は残部空間やデッドなネガティブスペースに植栽しても景観に効果的ではない。

(1) 緑が景観に役立っているか？

- ・場所(位置)……人が多く集まる場所にあるか。
 - (駅前、公共施設、幹線街路)
 - 目立った場所にあるか
 - (山の斜面地、丘陵の斜面、坂、アイストップ)
 - ・形態……連続しているか
 - まとまっているか、散在か
 - (街路樹、河川沿い)
 - ・質……鎮守の森(多層・多様な樹木)
 - 高木(シンボル、ランドマーク)
 - リンゴ並木(地域の代表的な樹木)
 - * 地域の人々との間に、エピソードが生まれているか
 - 単なるものか、生活と密着しているか
 - 市役所横の旧 26 号の街路樹
 - 阿間河滝のムクノキ
 - * 公共の緑と民間緑等全体で結びつき体系的、有機的になっているか。
 - * いかに緑が他のものと融合しているか
 - 街路樹が他のテリトリーまで侵入しているか
 - 道路の上を被っているか
 - 宅地の庭まで陰をつくるか……苦情対策
 - * 充分生育する環境にあるか
 - (工夫してよく育つよう改善しているか)
 - ・量……機能を果たす一定量があるか(ボリューム感)
 - ・管理……植物の場合は他のものと違い維持ではなく、よりよく長期間に亘って育てることが必要
- (他の人工物と違い、上手く育てればより良くなる)
- * 市民に密着したきめ細かな管理になっているか。



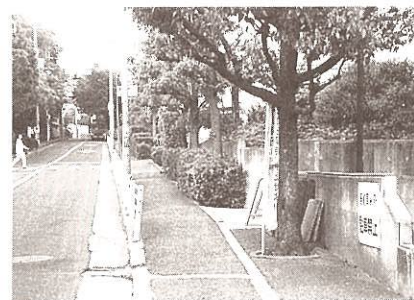
歩道の中央の街路樹(博多)



道を覆う街路樹(ハワイ)



前庭に同じ樹木、街路樹風
(ワシントンDC)



集合住宅の塀を引っ込め、
街路樹(吹田)



生垣も街路樹(ハワイ)

□街路樹の工夫発想を豊かに歩道がなくても街路樹の植栽は可能

4 公共施設の緑

1) 公共の緑の意味

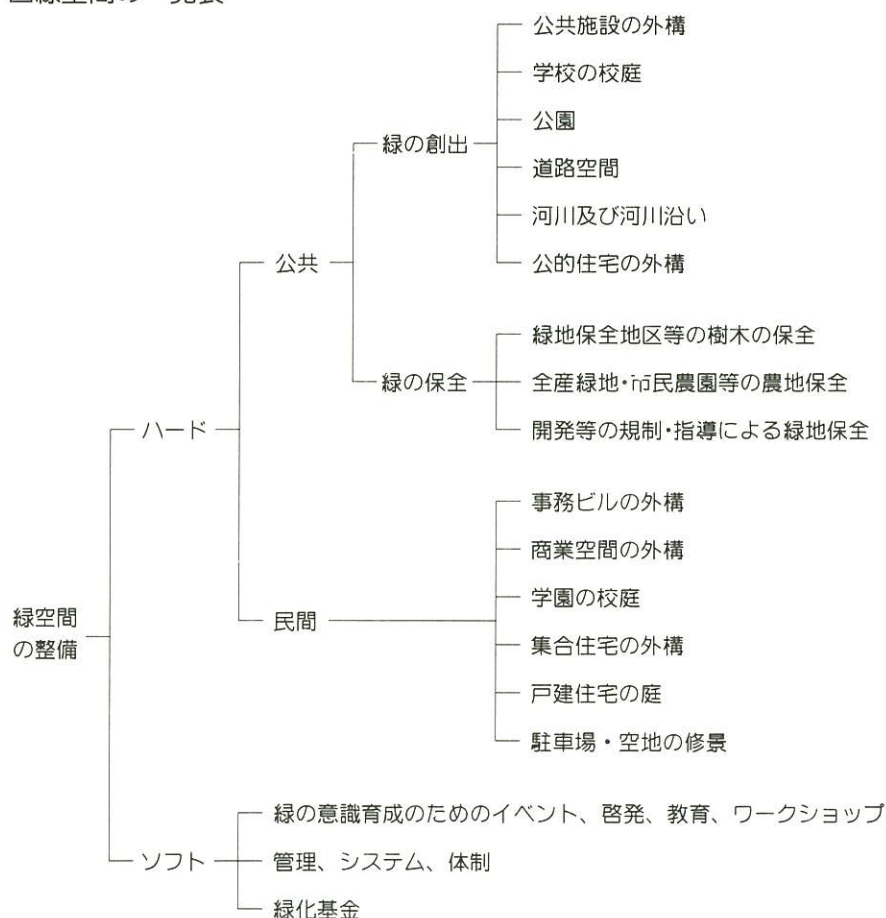
市内の緑空間として、都市公園等の公共の代表的なものから国定公園（金剛・生駒・紀泉）、山、河川、樹林地等の自然緑地、水田・畑等の生産緑地及び社寺境内地、公共施設の外部空間、街路、個人庭園等、多種多様なものがある。

特に民間の緑は永続性が担保されていなく、時の経過によって変化し、場合によって消失することが多い。民有地の屋敷林等が相続でなくなったり、緑の丘がニュータウンやインダストリアルパークに地形と共に一変してしまうことがある。

公共の緑の特徴として

- ①長期的・永続的な緑であり、長期的な視野で計画し、また、管理に対して責任が生じてくる。
- ②民間の手本になる必要がある。
- ③ガーデンシティ実現のための重要な拠点である。公共施設は一般的に人が集まり、利用しやすい場所にある。

□緑空間の一覧表



□都市の建物や木土空間を、緑やランドスケープの技術で融合させると違ってくる



親水公園、水に入りやすい(札幌)



スポーツ施設を盛土の中に(パリ)



公園の街路らしく、歩道も楽しい
(サンフランシスコ)



大きな壁面を小さく分割し
ヒューマンな感じに分節化(パリ)



大きい擁壁を疑岩擁壁に、壁前に樹木
(札幌)

2) 公共施設の緑の問題点

公共施設の最近の事例を見ると次の問題点があげられる。

(1) 外部空間の規模

公共建築物の外構計画においては、敷地の規模に比べ建物のボリュームが大きく、外部に余裕がない。また、駐車場確保に苦勞し、外部空間計画＝駐車場計画になってしまっている。

＊建物の地下を有効に使ったり、コンパクトにまとめて外部空間を確保したり、駐車場の緑化手法の検討やアトリウム、テラス、屋上等の緑化スペースを捻出する工夫が必要。

(2) 計画、設計サイドに緑の知識が少ない。

公共建築物の設計は建築家のみが担当し、ランドスケープの人に相談するまでの物件がない。

・そのため、安易に市の木であるクスを植栽し、低木はツツジと相場が決まってくる。多様性に欠けるし、クスは確かに常緑樹の中でも、葉の色が明るく比較的問題が少ないが余裕のない南側の玄関前に植栽する等、冬の日照の確保や大木に育ったときのスケール・景観を考えてもらいたい。

・街路樹でイチョウを植栽するとき歩道幅員が広くないと根で歩道が盛り上がりたり、主幹が明確で剪定しにくくバッティングする事がよくある。また、イチョウは、初め成長が遅いが一定年月が経つと驚くほど早く成長する。

＊樹木は生き物だから、完全な樹種はなく、必ず長所と欠点がある。それを知って場所に合った植栽をしなければならない。（同じ樹木一本でも育った環境で表と裏ができる）

＊建築家に植物知識がない場合、役所サイドで指導していかなば良質なものはできない。最低 50 種できれば 100 種以上の樹木を識別できることが必要。（添付した樹木・街路樹クイズにもトライしてもらいたい）

(3) まちなみ・やまなみに対する配慮の欠如

・周辺のまちなみを補完する植栽も考慮してもらいたい。歩道のない道路でも公共施設側で街路樹的に列植することも可能。

・周辺が緑の多い地域だったら、それを考慮してもらいたい。

＊例えば生垣を植栽し、中間の不要な景色を消し、遠くの山の緑を取り込む（借景）。

＊青梅市の玉堂美術館の庭園にスギの木が一本植栽されているが、これは作者が川向こうの秋川溪谷のスギ林と計画地とを結びたいと意図した。

・民地との境界はよく考慮し、充分説明をした上で高木を植栽しないとトラブルのもととなる。（山の中の別荘だと苦情はこないが）

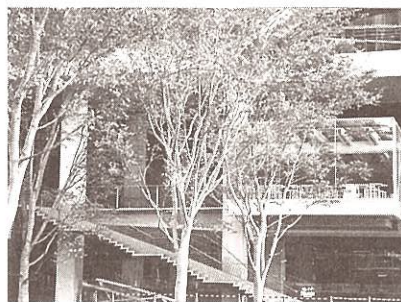
口人工空間の緑化。土地は少なくとも、人工地盤でも緑は植栽できる。



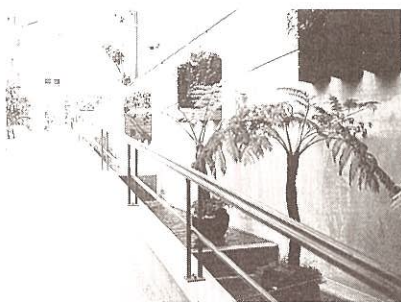
壁面の緑化(ウィーン)



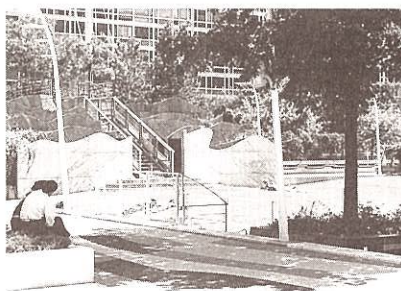
サンキンガーデン(東京)



広場の緑化(東京)



アトリウムの緑化(兵庫)



屋上緑化(パリ)

5 岸和田の緑の考え方

1) まちの格と資質

城下町を中心として発展した歴史と伝統があり、府下で3番目に市になり、もうすぐ20万都市になる泉南の中心都市である。それらに相応しい風格のあるまちづくりや個性的なまちをつくるのに緑は有効である。

また、子供の頃、少年や少女のとき、まちや自然を体験し、自分のまちを知ることが大切である。世界的にみて、海と山を持っている都市は少ないが、岸和田は国定公園から豊かな海もある。緑や自然の良さを体験できるように、まちをデザインしていかなければならない。

2) 都市構造と緑

パリは街路樹のまちであり、街路樹と中高層の歴史のある建物が良くマッチしている。一方、ニューヨークは中央にセントラルパークが位置し、広大な緑の面で広がり、近代的な高層建築からの眺望を楽しむことができるが街路樹はあまりに見られない。

岸和田の緑の考え方として、岸和田の地域特性を生かすには神於山と春木川、港を結ぶ、水と緑の軸の強化が必要と考える。市の南に位置する神於山もヤマザクラやヤマモミジ等によって遠くから季節が楽しめる山にはできないだろうか。

3) 公共施設の緑のポイント

公共施設の緑のポイントを示すと以下ようになる。もちろん、緑は民間と公共施設が補完しながら育てていかなければならない。

■公共施設の外構・・・・・・・・コミュニティ格としての緑

(地区センター、公民館等) 建物と外部空間のデザインの密度を揃える。周辺環境と調和させる。サンクンガーデン、テラス、アトリウム、屋上緑化、駐車場の緑化。

■学 校・・・・・・・・児童数の減少に伴ない、校庭の充実をはかる。土の校庭から緑の観察園に。防災拠点にもなる。
春の入学、卒業時に咲く花の方が夏休みに咲く花木より効果的。記念樹の植栽(成長の変化が楽しい)学校のシンボルツリーの選定。



城と石垣と堀、岸和田の原風景
(岸城町)



公園とため池と体育館(西之内町)



放射線状の道路と緑(パリ)



広場と駐車場のバランス(横浜)



路上駐車場を緑で包む(ミュンヘン)

□岸和田の特性を生かした緑を
□外部の大面积を占める駐車場も
緑の工夫が必要

■公

園・・・・・・・・地区の緑の代表、ネットワークの拠点。

多様性のある緑。土地の歴史性のある緑。
 周囲は緑で壁をつくらない。眺望も考えた
 緑、花卉の植栽（地元の人々の管理への参
 加、コミュニティの活性化）、山の丘陵地
 公園は周囲から見ても楽しい植栽（ヤマモ
 ミジ、ヤマザクラ等）



ボランティアの参加(横浜)

■道

路・・・・・・・・多くの人々の目にふれる場所。まちの印象

(街路・鉄道沿線)

や評価につながる（特に鉄道沿いは関空から
 大阪への途中、関西イメージがつけられる）

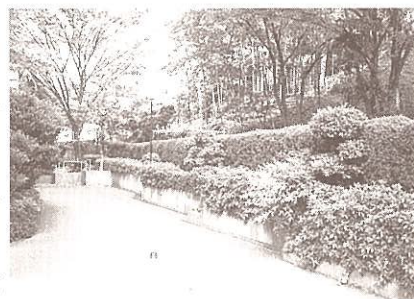
交通の視界の妨げにならないデザイン、樹
 種。街路の個性を出す樹木（街路樹）、道
 路のコーナー緑化、土の広場、橋詰めの広
 場。

バラのトレリス、市の花を増やそう
(大阪)

■河

川・・・・・・・・公共施設との一体化。人が河川に入れる工

夫と安全教育。水と緑との軸の形成。エコ
 ロジカルな緑。水生植物。水と生き物に触
 られる水辺のプロムナード。上流はネイチ
 ャートレイル。親水護岸。ビオトープ。水
 質浄化。

集合住宅の緑、擁壁を柔らかく
(吹田)

■公 的 住 宅・・・・・・・・季節感のある樹木の植栽。きめの細かい植

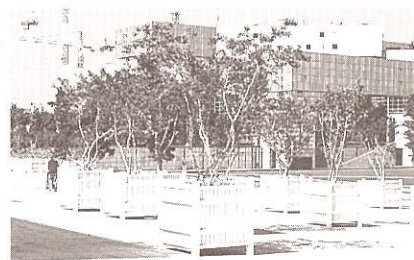
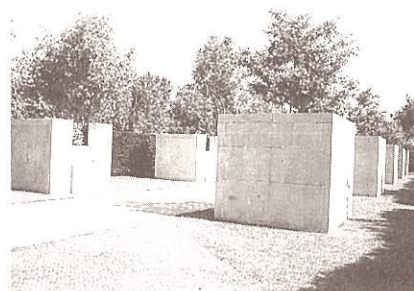
(集合住宅)

栽。樹種を多く。

果実（カリン）、トレリス（ツルバラ）、
 香りのある木（キンモクセイ）、花木（ハ
 ナミズキ）等。

建物の堅さを和らげる植栽（高木）、南側
 の日照を考慮した中木か落葉樹。

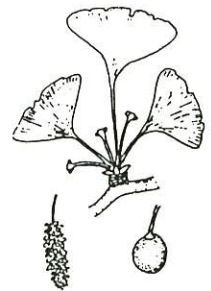
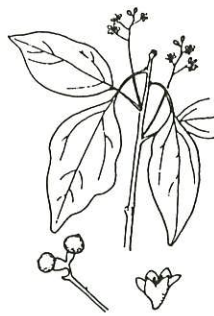
駐車場の緑化。

プラントボックスも樹木とマッチ
(パリ)植栽枦も大型にしてモニュメント化
(パリ)

口緑は非常に多様化し、立地特性や施
 設の機能を考慮した効果的なものが
 要求される。

樹木・街路樹クイズ

- 日本で最大巨木（樹高）の樹種は？
()
- 樹木は土中の栄養を一般的に何mまで吸収しているか？
① 0～1m ② 0～2m ③ 0～3m ④ 0～4m
- 世界の四大街路樹の名前は？
① () ② () ③ () ④ ()
- 日本で街路樹として植栽されている樹種の多いものベスト3は？
① () ② () ③ ()
- 明治時代東京の街路樹の大半を占めていた樹木は？
()
- 街路樹に要求される一般的特質は？
① () ② () ③ () ④ ()
- 街路樹の効果は？ EX. 精神的なもの→やすらぎ感を与える
① () ② () ③ () ④ ()
- 街路樹の欠点は？
① () ② () ③ () ④ ()
- 街路樹名を記せ。



- ① () ② () ③ () ④ ()

- 街路樹の①植栽間隔と街路樹を植栽可能な②歩道幅員は？
① () ② ()
- 岸和田の地域性を考え自分が植栽したい①樹木名と②その理由を記せ。
① ()
② { }

樹木・街路樹クイズ解答

1. スギ 2. ① 3. ホノマ、アラカサ、ボクサイジュ、ニシ、セイヨウトチノキ（アロニア）から4つ選択
4. イチョウ、サクラ類、ウツギ、トウカエデ（平成6年 建設省土木研究所調査） 5. ヤナギ

6. 樹形が整っており、葉、花が美しい・枝葉が密生している・強健（大気汚染、煤煙、塵埃、輻射熱、乾燥、やせた土壌、病害虫、治癒力等）・樹冠の刈込、剪定に耐える・悪臭や毒性、棘がない・深根性・栽培、移植が容易・維持管理費が安い・多量に入手できる など

7. 都市景観の美化・緑陰を提供・四季の変化、季節感・防雪、防風、防塵、防火、防音、遮光・気温調節（緑陰、光合成、蒸散）、空気の浄化（大気汚染物質の吸収）・視線の誘導、通しるべ・物理的緩衝作用・ラントスペース効果 など

8. 落葉、落葉の清掃・通行の障害・根株、根茎の成長による路面および埋設物の損傷・視野の妨げ・維持管理が必要 など

9. ①サクラ ②スギ ③ウツギ ④イチョウ

10. ①6～8m（樹冠幅4～6mに約2mを加えた距離6～8mとするのが一般的。更に大きい樹冠幅となると10～12mの場合もある。） ②3m（歩道の幅員は1.5m以上、並木を設ける場合にはこの値に1.5mを加える。）

* ○が20以上合格

2 要素：緑

1. 都市空間における「緑」の位置づけ

緑の豊かなまちは快適でよいまちだと誰もが感じます。従って、行政は緑ゆたかなまちをつくっていく責務があるといえます。

個人の敷地でまとまった緑を確保するのは難しく、確保できても所詮個人の財産にしかありません。誰もが見て、触れて、楽しめるみんなの財産としての緑をつくっていくには公共空間に良質な緑空間をつくっていかねばなりません。

■アメニティ、ゆとり、やすらぎ

◇生活空間に自然を取り入れ、自然に触れながら暮らしたい、というのはひとの自然な欲求です。都市空間に豊かで質の高い緑があることで人々はうるおいとやすらぎを感じます。

◇緑はまちを豊かに演出するもっとも効果的な景観要素であり、景観美を構成するひとつの要素です。快適な環境づくりのために緑は欠かせません。ややもすれば人工的で潤いのない都市の構築物は緑を増やすことで潤いのあるやわらかな印象を醸し出します。

■空間の演出、イメージづくり

◇良好に育成された街路樹は通りに統一感を与え、街角にある大木はシンボリックな印象を与えます。緑を効果的に投入していくことで都市空間を生き生きと演出することができます。

◇鎮守の森など人々に愛され、地域に親しまれる緑は、その場所にイメージ、名前、物語を与えます。緑には心に残る風景を創りだす力があります。

■季節感の演出

◇日本人の生活には四季の変化と密接な関係があり、人々は日々、季節を感じながら生活しています。

◇まちには季節感の演出が欠かせません。樹木、植栽の季節毎の変化はまちに季節の表情を彩ります。

■環境教育・まちづくりの種

◇緑は地域に暮らす人とともにあり、生活スタイルにとけこんでこそ生きてきます。住民がまちの緑に関心を持ち、ともに育てていくことはまちづくりの種となります。また、まちの緑が手入れが行き届き、生き生きしているということはそのまちの住民・行政の品位が高いと言えます。

◇まちの緑は環境問題への身近な入口です。緑を育てることで環境への関心、エコロジーや生態系への配慮の意識が芽生えてきます。

対象となるもの

- ①まちの緑
 - ◆街路樹
 - ◆道、広場の緑
 - ◆公園の緑
 - ◆公共建築物の外構
- ②水辺空間の緑
 - ◆水辺の緑
 - ◆ため池
 - ◆護岸の緑
- ③自然空間の緑
 - ◆保護樹、保存樹、巨木
 - ◆神於山、葛城山、ブナ林
- ④農空間の緑
 - ◆農地
- ⑤その他の緑
 - ◆寺社林、屋敷林など

2. ゆたかな「緑」形成の考え方

■緑を残す・守る

- ◇巨木、寺社林などの永い時を経て受け継いできたかけがえのない緑はまちの財産である。これを残し、守り、次の時代へ継承する。
- ◇まちの緑の財産を見直す。

■緑を育てる・はぐくむ

- ◇緑は植えただけでは景観への効果はなく、よりよい状態に育てていくこそ景観形成に寄与する。
- ◇緑が育つ環境を用意する。（空間、日光、水、土壌、肥料など）
- ◇常に良好な状態を保つ。水やり、整枝や剪定など、適切な手入れが行き届いている。
- ◇施設管理者に緑の世話を押し付けるのではなく、みんなで育てる。

■緑を投入する・増やす

- ◇緑はままとすると更に豊かさを増す。まちに多くの緑空間をつくる。

■緑を連続させる

- ◇緑が効果的に投入され、緑のネットワークや緑地軸を形成する。

■人とのかかわりを持つ

- ◇人がふれることができ、楽しめるものにする。アクティビティとの関連性がある。

3. ゆたかな「緑」形成のためのデザイン方針

■公共施設の敷地内で緑を供給する

- ◇公共建築物、街路空間、公園、土木構造物、水辺空間など施設と効果的に組み合わせた緑空間をつくる。
- ◇広い校庭をもつ学校などでは特に積極的に植栽をし、良好な緑形成に寄与する。緑の維持管理に生徒・教職員とともに取り組む。
- ◇公共空間へと緑を連続させる。敷地内の緑が街路空間の緑空間形成に貢献する。

■地域イメージを演出する

- ◇樹種や植栽方法、デザインなどで空間のイメージ、「らしさ」を創出する。
- ◇樹種の選定や掃除などに住民参加を取り入れる。
- ◇岸和田の変化に富んだ地域景観特性にふさわしい緑空間をデザインする。

■人が楽しめる緑空間をつくる

- ◇誰もが日常の生活の中で緑を楽しめるものにする。
- ◇住民の共有の「庭」としての役割を果たす。

4. デザインのポイント

■空間の骨格を演出する

- ◇まちなみに効果的な緑を配置する。空間的に捉え、連続性とシンボル性を演出する。
- ◇人の視線を考え、修景的に利用する。隠蔽効果。
- ◇わかりやすいまちなみ形成に寄与する。ランドマークやアイストップに利用する。
- ◇直線的な堅いイメージを与えるものについては植栽でやさしいエッジを演出する。
- ◇地形を生かした植栽をする。

■緑の財産をいかす

- ◇遮らない、借景として生かす。ランドマークとして利用する。
- ◇色彩、サイン、配置などで施設は緑を阻害しない。緑が引き立つようなデザインをする。

■物語性やイメージを演出する

- ◇小さな森をつくる。樹木に名前をつける
- ◇歴史性を演出する。季節感を演出する。

■敷地境界は植栽・樹木などでゆるやかな敷際を演出する

- ◇外構から街路空間にかけて緑空間の連続性を演出する。
- ◇やわらかな敷際を演出することで施設の開放感を出す。

■街路樹は慎重に計画する

- ◇街路樹で街路空間を演出する。連続性を演出し軸線を強調する。
- ◇樹種や植栽方法を工夫し、街路のイメージを演出する。
- ◇人にとって歩いていて楽しい空間づくり。ビスタを形成する。
- ◇樹種と生育環境、スペースと安全性に配慮する。条件の確保が困難ならば、他の要素（沿道施設、道路、ストリートファニチャーなど）で街路空間を演出する。

■工夫して緑空間を演出する

- ◇整形植栽、自然風景植栽、自由植栽など植え方を工夫する
- ◇ストリートファニチャー、アート、生き物、ライトアップなど他の要素と組み合わせる。

■自然空間、生物棲息空間（ビオトープ）をつくる

- ◇生態系に配慮し、生き物が棲める緑空間をつくる。
- ◇土、石、水、花、実、虫、鳥などの他の自然要素とともに緑を生かした空間づくりをする。

■人の行動を促すようなしかけをつくる

- ◇芝生広場や木陰の休憩所など集い、散歩し、憩い、おしゃべりをする場としてのデザインをする。
- ◇ベンチや水飲み場などの要素と組み合わせてデザインする。

5. みんなで緑を育てるための取り組み

手入れのされていない植栽、剪定で棒のようになった木、電線で窮屈そうな街路樹、枯れかかった木、などまちには見苦しい、哀れな緑があちこちで見られます。こういった緑は決して景観に寄与するものでなく、人々に安らぎを与えるものではありません。

景観形成に寄与する生き生きとした緑空間をまちにつくっていくにはそれ相応の努力が求められます。緑は美しく、誰もが好ましいと感じる状態であり続けなければなりません。

緑が豊かなまちはいいまちだと思える一方で、緑には虫がつく、葉が散る、手入れをしなければならない、といった非常に邪魔くさい面もあります。これらを行政が一手に引き受けるのではなく、地域とともに取り組まねばなりません。行政と住民がマイナス面を十分認識し、ともに乗り越えてはじめて緑豊かな景観をみんなで創ることができます。

■啓発活動をおこなう

◇意識や知識を高めるための標識、説明板（樹種、生息する動物など）を設置する。広報で知らせる。

■人材育成

◇地域の中に緑のリーダーをつくる。

◇ボランティアやNGO、NPOを育てる。

■地域と共に緑を育てていくしくみ、しかけをつくる

◇小学校、中学校とも連携し、子供と一緒に緑、自然を育てる。自然のなかで子供たちがのびのびと遊び、学ぶ場をつくる。

◇樹種の選定、維持管理など緑の形成に広く住民参加を取り入れる。

記念植樹を工夫する。ネームツリーをつくる。

◇地域の緑を育てる住民の組織に対して、行政は支援をおこなう。

6. 行政の役割、職員の姿勢

■植物を知る

◇植生を知る、自然を知る、理解する。

◇植物が育つ環境を理解する。土壌を知る。

◇岸和田の自然の骨格を理解する。植生、農、自然、地形など。

■言い訳に使わない

◇緑を取り入れたから景観に配慮したという誤解をしない。言い訳をしない。

■計画者と管理者、利用者が一緒に育てる

◇計画者がイメージを押し付けるのではなく、互いにおなじイメージを共有し、同じ価値観のもとで緑の育成にあたる。

◇計画者は緑の育成のためにフォローする。管理イメージを管理者に伝え、指示する。

3 サインの環境デザイン

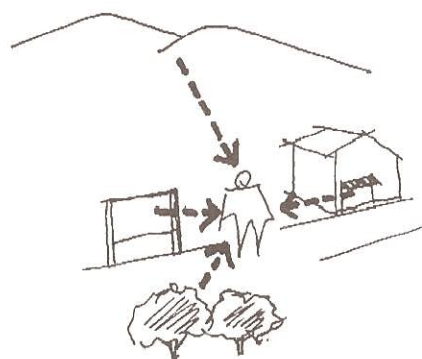
1. サインとは何か

サインは案内や警告などさまざまな情報を人々に伝えるために設置される。サインの分類のしかたにはいろいろな方法があるが、そのひとつに「標示系サイン」「非標示系サイン」という分類がある。「標示系サイン」とは、人々に情報を伝えるためにもっぱら設置されるものであり、通常はこれをサインと称している。しかし、われわれがまちのなかで情報を得る媒体は標示系サインだけでなく、「非標示系サイン」を含めたさまざまなものから情報を得ている。山並みから方角がわかったり、まちなみの特徴で現在地点がわかたりする。このようなとき、山並みやまちなみはサインの役割を担っている。こうした、サインとして設置されたものではないがわたしたちに情報を発してくれるものを「非標示系サイン」という。

わたしたちは日常、標示系サインや非標示系サインを巧みに組み合わせて行動しているはずであるが、サイン設置者という立場になったときには、標示系サインのほうを意識しがちになってしまう。そして、標示系サインのみに頼るサイン計画をたて、ときにはむやみにサインを設置することにもなる。

まちがわかりやすいかどうか、は、じつは、非標示系サインとしてのまちがどのようになっているか、が大きく影響する。たとえば、港町のように地形に起伏や特徴がある場合、坂を下れば海の方であることが理解できる。また、平坦地では河川がまちの構造を理解することに役立つ場合もある。また、まちなみが単調だと場所を確認することが困難になる。さらに、角のタバコ屋さん、というような建物用途の特徴が目印になることもある。

こうした観点からサインを捉えるとき、標示系サインはあくまでも補助手段であることがわかる。本来、まちの構造やまちなみに特徴をだし、まちをわかりやすくすべきである。標示系サインがなければわかりにくいまちは、まちの構造やまちなみのどこかに問題があるのかもしれない、こうした意識を持つことが過度のサイン設置を防ぐことにもつながる。



われわれはさまざまな要素をサインとして利用している

2. 配置のデザイン

さて、以上のような基本的姿勢にたったうえで、つぎに標示系サインの設置について考えてみよう。標示系サインのデザイン（以下では煩雑さを避けるため「サイン」と記述した場合は「標示系サイン」を指すものとする。）を考える際には、「配置のデザイン」「設置のデザイン」と「サイン本体のデザイン」にわけるとわかりやすい。サインのデザインには、「本体のデザイン」以上に「配置のデザイン」が重要である。

サインを配置する場合、まず第一に、「適度なサイン配置をおこなう」ことが必要である。数量としてもまた大きさとしても適度なサインを設置すべきである。サインを含めてまちなかにはたくさんの情報があふれている。人間が一度に理解できる情報量は限られており、過度の情報提供は情報混乱をまねくだけである。設置者としては、情報提供量が大きければ大きいほどわかりやすさが増すと考えがちになるが、設置をおこなう周辺の状況をよくみて、適切なサイン設置をこころがけることが肝要である。また、複数のサインを設置する場合には、全体の設置計画をたて、適切な場所に適切にサインを設置する。

さらに、効用を十分に考慮し、効果が低いサインの設置は慎むべきである。設置者の立場からすれば、少

しでも効果があるならばできるだけサインを設置したいという気持ちになるが、環境デザインの観点から考える場合、まちなかにはすでにたくさんの要素が存在しており、サインの設置によってまちの環境が乱雑になることもある。情報媒体はまちなかに設置するサインだけではなく、広報紙や新聞、ビラといった紙媒体、CATVなどのニューメディア、等々、さまざまなものが存在しており、こうした多様な情報媒体を効率的に活用することも含めてサインのあり方を考察すべきである。

3. 設置のデザイン

ひとつひとつのサインの設置デザインを考える際にも、周辺の状態をよくみてデザインを考察する必要がある。サインはわかりやすくなければならない。奇をてらったデザインや派手なデザインはたしかに目立つ。しかし、目立つこととわかりやすいことは同義ではない。配置のデザインでも述べたように、わかりやすさは周辺の状態とサイン本体の関係で決まるものである。その意味でも、周辺の状態を読みとることが大切である。

サインを際立たせ、わかりやすいものにするためには、サインの周辺に存在する他の環境デザイン要素を整理することも必要となる。たくさんの要素にサインが埋もれてしまってはわかりやすさは期待できない。

また、サインの設置によってその場所の環境デザインの質が向上するよう、環境デザインに貢献するサインデザインを検討することが大切である。そのための具体的手法は個別に検討すべきものであるが、事例的に述べると、たとえば周辺の環境デザイン要素と孤立したデザインとせず、周辺要素と有機的につながったデザインをこころがけることが必要である。低木植栽がある場合にはそのなかにサインを設置したり、建物の外壁を利用した設置をおこなう、等、周辺要素と一体となった設置デザインを工夫する。



看板が多く分かりにくい。...



植栽等とのとり合いを考慮して設置している例

4. 本体のデザイン

最後に本体のデザインでもっとも重要なことは、サイン単体のみでデザインを考えるのではなく、周辺の環境状況を考察し、環境デザインを構成する要素としてデザインすることである。周辺に調和したデザインをおこなうことが肝要である。

環境デザインでよく「らしさ」ということがいわれる。岸和田では、「岸和田らしさ」である。たしかに、環境デザインに「らしさ」は必要である。しかし、それがサインのデザインに「らしさ」を取り入れるかどうかには直接つながらない。そこには、「らしさ」をどんな要素で演出するか、を検討することが必要となる。サインが「らしさ」を演出する重要な要素である、ということになれば、積極的に「らしさ」を取り入れたデザインにすべきであるが、そうでなければさりげないデザインにすることによって他の要素を引き立たせる役割を担うこともありうる。

また、従来のサインの場合、維持管理の悪さが課題となることも少なくなかったが、今後は、設置時だけでなく時間の経過を考慮し、十分な維持管理に努めることも必要である。維持管理の悪さは、落書きをはじめとする市民の公德心の欠如に起因するところもあるが、そうした点からは市民に親まれるデザインを施すことによって、市民が愛着をもち大切に思うサインとすべく工夫が望まれる。

3 要素：サイン

1. まちにおけるサインの位置づけ

■人とまちのコミュニケーションの仲介役

◇まちの情報提供、まちのわかりやすさを助けるもの

道路や建物、山、川、橋などが認識しやすい特徴をもっていたり、まちの中での位置づけがはっきりしていて、方向判断や行動の拠り所になりやすいという、まちの構造がはっきりしたうえで、サインは、まちを分かりやすく整理して表示し、必要な情報を送り出し、人々が安全かつ快適に行動できるように、人とまちをつなぐ役割があります。

◇まちらしさを発信する

自然的要素（山、川、海）、物理的要素（建築物、サイン類、ストリートファニチャー類）から文化的要素（気候、風土、伝統、習慣、作法など）までまちのアイデンティティを構成する様々な要素、まちの構造や表情を伝えるためのコミュニケーションの媒体としていかされます。

◇まちづくり

まちの情報を分かりやすく提供し、まちの個性を表現するということは、まちを構成するすべての要素を情報伝達のための要素あるいは環境として体系化することであり、それはすなわちまちづくりそのものです。

■景観形成からみたサインの考え方

◇サイン計画は単なるサイン整備ではなく、まちのあらゆる問題を含めた総合的な環境計画です。地域の風土や、まちを特徴づける特性を引き出し、個性化をさらにすすめながら、まちの構造をわかりやすく表現しなければなりません。

◇サインの問題は、個々のデザインと同時に全体のルールの問題です。周囲の環境に調和しているか、過剰ではないか、雑然としてはいないか、必要な場所にあるか、分かりやすいか、通行の障害になっていないか、全体を見て、判断する必要があります。

■今後の役割、もつべき機能

◇誰もが快適にまちで暮らすためにはサインにも国際化、弱者対応といった役割が求められます。

公共サイン…当マニュアルが対象とするサイン

①サインの広義的意味

- ◆ひとびとが生活していくうえで必要なコミュニケーションを成立させるための情報
- ◆商業看板、交通標識、案内地図や誘導表示など、一般に認識されているものの他、感覚に訴えるもの、「めじるし」となるようなもの、例えば、空の明暗、太陽の位置、山並みや川といった自然の地形、まちの風景といったものも生活の情報を得ることのできるという広義的なサインに含まれる
- ◆公共サインとは、こういった広義的なサインと一緒に機能する

②情報発信としての公共サイン

- ◆公共サインとは住民生活情報や広報誌などといった市が発信する様々な情報のひとつ
- ◆まちらしさを演出し、住民のみならず、来訪者に対して、まちについての情報を提供する機能をもつ

③当マニュアルで検討する「公共サイン」

- ◆おもに屋外空間の歩行者やドライバーを対象にした屋外空間に設置される公共的な情報
- ◆公共建築物等の公共施設に取り付けられるもの、敷地内に設置されるもの
- ◆公共施設についての情報を提供するもの（分類、対象範囲については後述）

2. 公共サイン整備方針

■「わかりやすいまちづくり」に寄与する

■景観阻害要素とならない、適切な整備をする

■まちを表現し、紹介する

3. デザインのポイント

■まちの中での施設の認知のシステムを予測する

- ◇敷地選定の際、わかりやすい場所を選ぶ。
- ◇サインの機能を十分発揮する効果的な設置場所を予測する。
- ◇アクティビティ、人や車の動線、方角、ランドマークについて調査し、まちの骨格の中で設置を検討する。
- ◇全体のサインシステムのなかでわかりやすさを考慮する。

■マスタープラン、ゾーニングの時点で認知の骨格をつくる

- ◇必要な情報をわかりやすい場所に設置する。
- ◇施設計画の最後に付け足すのではなく、必要最小限で適切な設置をあらかじめ予測して計画する。

■地域性を表現する

- ◇岸和田は地域ごとに変化に富んだ景観特性を持つため、同じサインでも場所ごとの特性を表現する。
- ◇地域の歴史や植物、場所などを紹介できるようなものを考える。
- ◇地域の中にデザインのヒントを探す。

■メンテナンスで配慮する

- ◇管理する側、施設利用側との意思疎通をはかる。
- ◇予測できなかったサインの設置需要に対しても設計者が対応するようにする。
- ◇良好な状態で利用されるようにメンテナンスと情報の更新に留意する。

■整理する

- ◇ストリートファニチャーや建築物、既存のサインなどとあわせたりしてなるべくサインの数を減らす。
- ◇必要なくなったサインは撤去する。

■周りを控え目にする

- ◇サインの周辺は控え目にし、サインが分かりやすいようにする。

サインの基本事項

職員は理解し、共通の認識とすること

①サインの種類体系

(分類、対象範囲については後述)

- ◆サインの機能による分類
- ◆サインの整備手法による分類
- ◆利用者による分類

②サインの構造、システム

- ◆認知のシステムを理解すること
- ◆岸和田のまちの構造(まちのしくみ、人の流れ、車の流れ、地域施設のネットワーク)を理解する。

③「岸和田市サイン計画」との対応、整合性を はかる

- ◆サイン計画の目的
- ◆対象としているもの
- ◆サインの種類、体系
- ◆設置のシステム、配置計画を理解する
(「岸和田市サイン計画」参照)

4. 今後の取り組み

全体システムの中で設置されるサインは自治体の職員に大きな責任があります。また、公共施設は住民、来訪者に分かりやすいものである必要があるため、サインは付け足しではなく、十分な検討の上、慎重に計画しなければなりません。

また、地域全体をにらんで、景観への取り組み方を示すなかでサイン全般をよりよい形へ誘導し、かつ、公的サインについてはその様式を定めるなど、マニュアルとして対応していかなければなりません。

■全庁的に取り組み、関係機関と調整する

◇まちづくり全般にかかわることであり、サイン担当課のみならず全職員がサインの役割を理解し、統一した考え方でサインの設置にあたる。

◇大阪府警、関西電力、NTTなど関係する組織のあいだでの調整、協力が欠かせないため、市の職員が調整の役割を担う。

■全体のルールをつくる

◇公共施設全体で統一したルールをつくり、混乱を防ぐ。利用する側（住民）がある程度予測して情報を得られる工夫をする。

◇表示方法の統一した決まりをつくる。

◇「岸和田市サイン計画」で決定済みの事項は従う。

◇その他、表示のしかた、色、ピクトグラム（絵文字）、ロゴタイプ（文字型）、デザイン、設置場所、情報、フォーマットなどはルールをつくり、統一化をはかる。

■まちづくりにいかす

◇設置するエリアの特性を表現するために統一のルールにのっとりながらバリエーションをつける。

◇地域を表現するサインを設置する。

◇デザインの決定やメンテナンスで住民参加を考える。

■民間を誘導する

5. サインの分類

■サインの機能による分類

引用：「岸和田市サイン計画」、
「やさしいまちづくりデザインノート3/公共サイン」

	目的	表示内容	表示物	公共サイン例	機能
a. 案内サイン	地域内の事物の所在や位置関係を確認するためのもの。図で表現される。	地域 ルート 路線 敷地 フロアなど	地図板 ルート案内板 館内案内板など	庁内案内板 総合案内板 住居表示街区案内板 地域案内板など	移動系サイン 説明サイン 移動系サイン 防災系サイン 規制・禁止サイン 広報系サイン
b. 誘導サイン	歩行者やドライバーを目的の事物まで導くもの。矢印・目的地名・略図・距離などで表現される。	目的事物+矢印 目的事物+指示 距離、時間 略図 矢印のみ 目印の連続など	誘導板 誘導灯 関電柱 NTT柱 電鉄会社柱 交通標識 誘導舗石など	誘導標 指定避難場所表示板 歴史と緑の散歩路案内板 など	
c. 説明サイン	情報の送り手の意図を説明したり、事物の内容・歴史などを解説するもの。文字・図・ピクトグラム（絵文字）などで表現される。	施設説明 展示物説明 由来説明 取扱説明 作動説明 風景説明 料金 利用時間など	解説板 説明板 プレート ステッカーなど	施設説明板 文化財説明板 坂道表示板など	
d. 記名サイン	対象物の名称や用途を示し、他のものと認別するためのもの。文字・記号・ピクトグラム（絵文字）などで表現される。	地名 道路 河川名 施設名 家名 丁町名 部署・室名など	館名板 名札 表札 のれん 銘石 壁面サイン 旗など	園名板 ネームプレート 道路名称標 保護樹木指定板 樹名板など	
e. 規制サイン	安全やルールを保つための行動を促すもの。禁止・注意・指示の内容が文字・ピクトグラムなどで表現される。	禁止 注意 指示	禁止表示板 禁止マークなど 警告・注意表示板 注意灯 指示表示板 指示マーク	公園制札板 駐輪禁止標 立ち入り禁止表 火気注意標など	
f. コミュニティサイン	ポスターを貼るなどして地区に住む人々が、お互いの情報交換、コミュニケーションの場として利用するもの。	お知らせ おことわり 広報など	掲示板 告知板 スタンド ポスターなど	掲示板 広報板 コミュニティボード 伝言板など	

◇移動系情報（構造系サイン）… 歩行者やドライバーが目的地へ移動する際に、まちのつくりをわかりやすくするもの
移動系情報サイン：まちの骨格や構造をわかりやすくするもの（点と線によるネットワーク）

◇生活系情報（円滑系サイン）… 地域での生活を円滑に営むためのもの
防災系サイン：災害、安全に関わる施設等をわかりやすくするもの（点と線によるネットワーク）
広報系サイン：まちの生活に関する情報を伝えるもの
説明サイン：具体的なあるものの知識を提供するもの
規制、禁止サイン：具体的なある行動を強く期待するもの

■サインの整備手法による分類

	目的	公共サイン例
g. 一般サイン	サインとして目的別に独自に設置される一般的なもの	上記の a. ～f. のサインを基本的には銘盤式・壁式で情報を提供する
h. 環境サイン	まちの中の「めじるし」となるもので、地域の環境を特徴づけ、地域のアメニティを高めるもの	埋込タイル、装飾ガードパイプ、街路樹、カラータイルなどにより、上記の a. ～f. のサインにおける整備手法を差異化したもの

■利用者による分類

	目的	公共サイン例
i. 歩行者系サイン	歩行者の利用に供する	上記の a. ～f. のサインを基本的には銘盤式・壁式で情報を提供する
j. 車両系サイン	車両運転者の利用に供する（道路交通法に準じて設置される）	ゲートサイン、その他主として誘導サインが該当

4 環境形成におけるパブリックアートの役割

1. パブリックアートって何？

もともとパーソナルであるアートは、時代や環境の変化でパブリックにうけとめられる要素を持っている。原始の呪術的なものから、古代の神々にささげられた建造物や装飾品、中世の名工の手になるもの、近世の富と栄誉の象徴、戦いの記念碑、時代を超えた道しるべに至るまで、その時代のある役割を担い、人々の目や耳に触れることによりパブリックなものとなっていく。それは単に「何を」というモノだけでなく「この場に何を」というモノゴトの思想の形と考える。このパブリックは、プライベートに対する概念ではなくこの両者に共同する人間性の表現に、ほかならない。人が集まって住む「場」を、パブリックスペースと考えると、それは太古からの人間の暮らしの営みである。

美術館やギャラリーなどの内なる閉ざされた環境の外で、アーティストの創造的な貢献により、人々の生活の場にアートを開放したものや、自治体や、教育機関や、企業や市民団体、個人によって資金援助を受けてつくられたもので、それらがその設備開発プロジェクトをサポートすることのできるものを小さな意味のパブリックアートとして、実際は、コンサルタントやコーディネーター、ある時は委員会を形成して契約、制作の管理をしている。その真のプロデュースは現代の美術とアーティストに深い理解を持つ人がその役目を果たせる。

2. パブリックアート誰のため？

パブリックアートは、地域社会のひとりひとりが各々のやりかたで環境に役立つことで、環境とかがわり合い、そのなかで個々の存在と責任を感じられる空間の存在の共通性をさし、単に広場や街路にモニュメントを設置したりホールに壁画をかけられるのを受け止めるだけでなく、その後に続くメンテナンス、維持管理、所有権、などの関係性と相対性において地域社会の個人的な責任でもある。

その環境への共有性と親しさをもたせる設計は、多義的なイメージをひきだす提案が必要である。計画の空間的条件が万便なく行き届いているか、納得のいかない、不自然なことを空間に押しつけていないかを、それが意識的であってもなくても問いなおしたい。物でも場でも「間」は、人々が集まることにより方向性を持ち意味を帯びる、それを生かすには全てをつくり込みすぎないように心がけることが大切である。

例えば広場なら、人の集まる場での形、…建物、空地、そこに至る道、その付属物すべてがパブリックスペースでありパブリックアートのエレメントである。広場の思想、場所性、時間制、空間性を捉えると、自ずからエレメントが集まってそれ全体がアートであるスペースとなる。

人々がそこに集まることで発生する生き生きした生活の場となり、場の目的が場のサイズを与えその中で人々はお互いの距離のバランスをとる。空間は場を与え、時間は機会をつくる。それが広場。

パブリックスペースがしめす近づきやすさ、人と人の距離、自然なコミュニケーション、個人が占有できる領域（現代では人との関係を好まない個人主義の傾向もある。）等々人々がその環境への共感を抱けるには、幅広い、質の高い場の包容力が必要である。そのためには、多くの先人の知識や体験、感性豊かなアーティストの眼、を借りてくるのも悪くはない。

空間がパブリックアートスペースならば、様々な個人的体験やゆたかなイメージを私たちに、与えてくれるでしょう。

3. パブリックアートの存在と役割

ここで様々な例を写真でほんの一例であるが見て、その意味するところのイメージを汲み上げて欲しい。
これらのものが存在しているまわりの環境までイメージをふくらませてほしい。

① 自然と過去の遺産から

*…出典：「都市と彫刻」欧米に見る公園・広場と街づくり
樋口正一郎著、鹿島出版会 1994



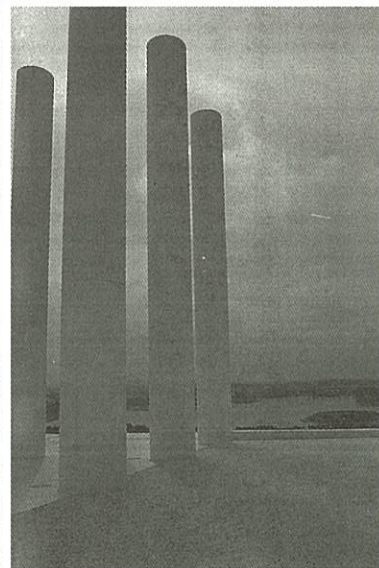
エフェスの遺跡 城壁 トルコ



ブラド公園 ジャン・アマドの人造の山 *
マルセイユ



エフェスの遺跡 石柱 トルコ



パリの大都市軸の先端、
セルジュ・ポントワーズにある
ダニ・キャラハンの造形 *
フランス



丘の上の円形劇場の再現 リヨン



ウッディタウンの野外ステージ 三田市

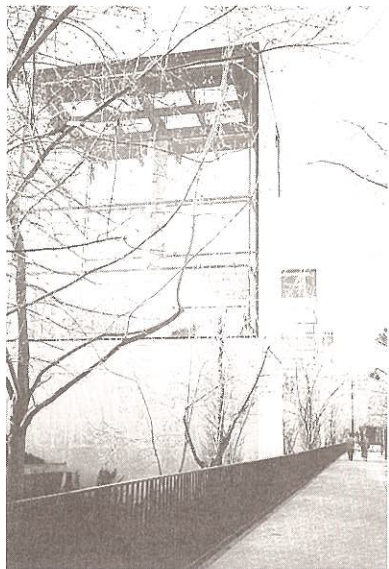


カッパドキアのきのこ岩 トルコ



エヴェリー市のジェラルド・サンジェの造形 *
フランス

② 自然の教え



より意識して見る事に気づくガラスの中の自然
パリ



水に映る並木
トゥール市
フランス



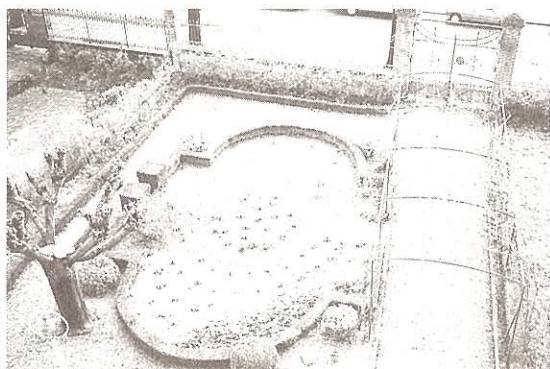
樹齢 200 年、枝の先端まで生命がみなぎっている
トゥール市



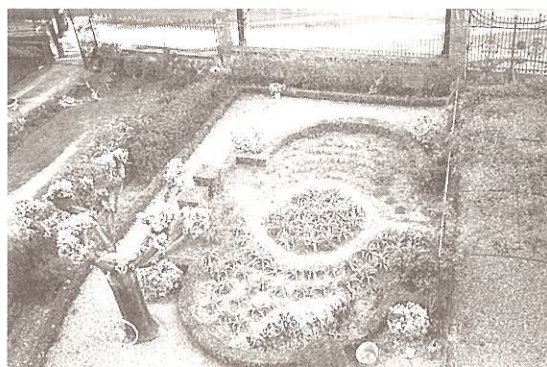
ローマ時代の、馬車の滑り止めのついた舗石
トルコの遺跡



波が造った縞模様ヴウロンバンス岬 デンマーク



2月の庭 アルビ フランス



5月の庭 アルビ フランス

③ 先達の知恵



広場の昔ながらの噴水 リヨン



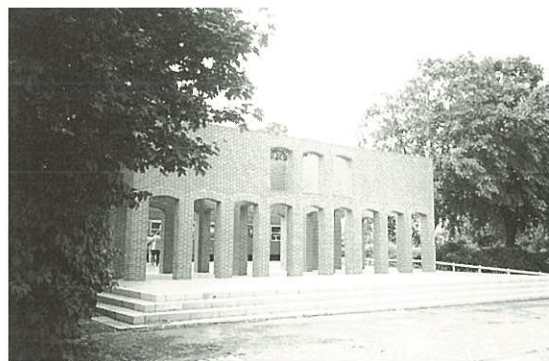
左の写真の噴水の前にあるダニエル・ビュランの水の広場



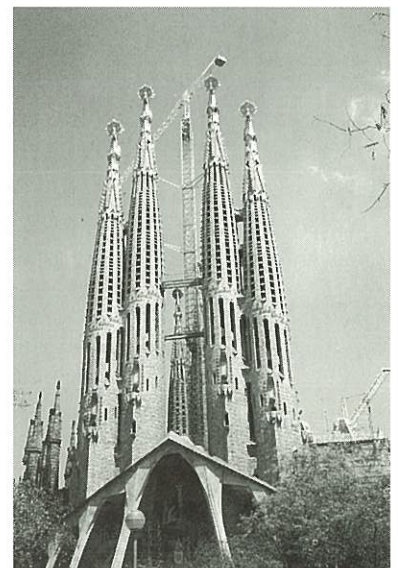
山に刻み込まれた住まい



川の畔の住居のような造形 川俣正 カッセル



建築のような造形 パー・キルビー デンマーク



彫刻のような建築
ガウディのサグラダファミリア
バルセロナ



ラッフルズホテルの中庭の parasol
シンガポール



田園に広がるクリストの傘のプロジェクト
茨城県太田市

④ 人の集まる公共の場



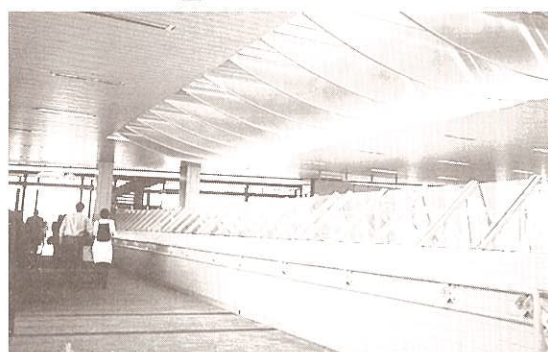
偉容にそびえる聖セシル大聖堂
アルビ



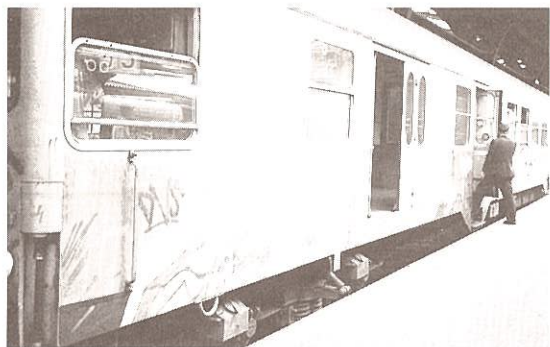
バスチーユ広場の7月記念塔と新
オペラ座 パリ



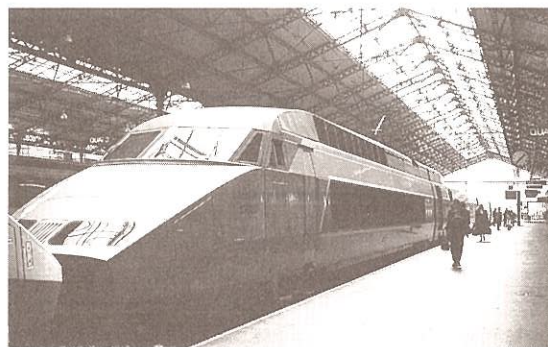
煉瓦の橋 アルビ



駅のギャラリー カッセル



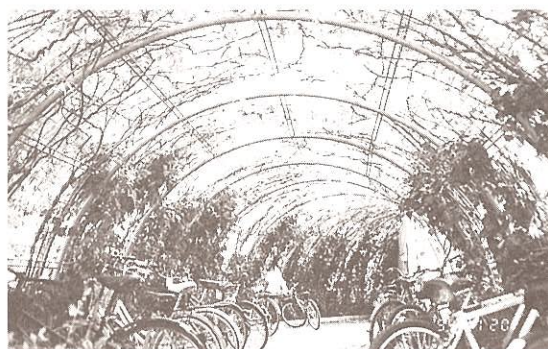
列車にかかれた落書き ミラノ



TJB特急 ボルドー



自転車置場 谷崎潤一郎記念館 芦屋市



自転車置場 谷崎潤一郎記念館 芦屋市

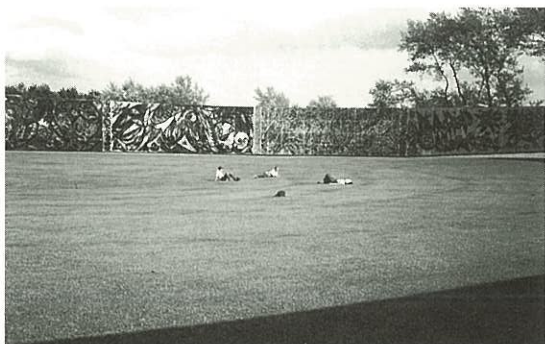
⑤ ある時人が集まる場 — イベント場



リュンベリンクの海岸に残されている
第2次大戦時のトーチカ デンマーク



バルセロナの海岸の旗のモニュメント
スペイン



陶板の壁で囲った広い原っぱ
ハーニング デンマーク



飛び交う水の遊び場 八つヶ岳



若者の集まるレ・アル広場 パリ



日曜日に立つ仮設市場 南フランス



風の盆祭り、「日本の道百選」にも入っている
富山県八尾



だんじりをひく人、見る人 岸和田市

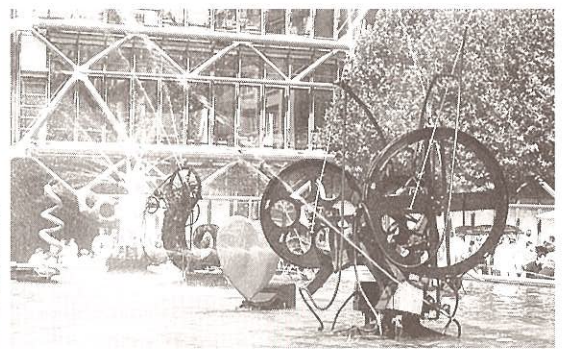
⑥ 人が親しむ造形



建物のガラスと池にうつり込む形
夏原晃子 デンマーク



子供がさわりたいくなる造形
夏原晃子 ORC200弁天町



ボンビドゥーセンター前の噴水
ティンゲリー パリ



東京都庁で唯一腰を下ろせる造形 多田美波



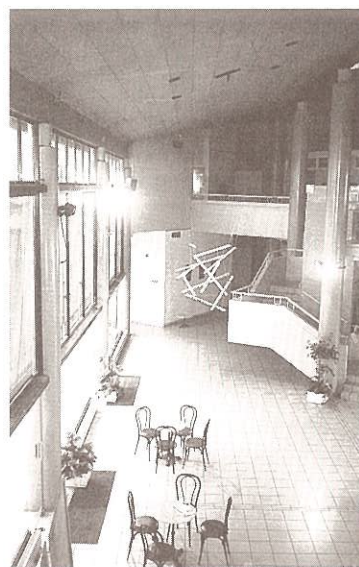
ニキの椅子 ボン美術館 ドイツ



春木市民センター 夏原晃子 岸和田市

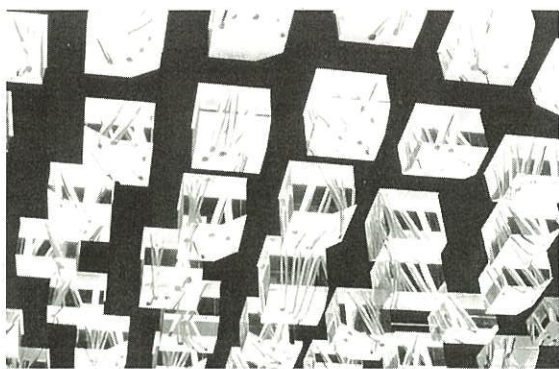


空間に浮かぶプリズム
夏原晃子 大阪ドーンセンター

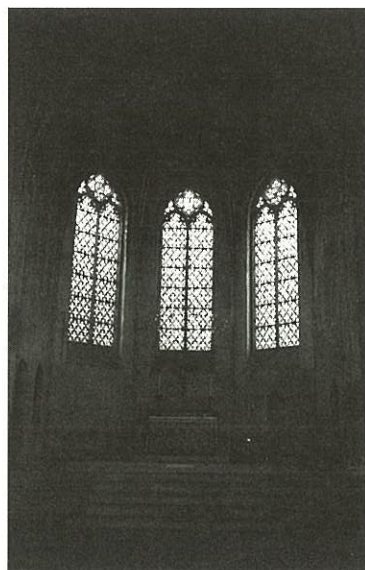


左と同じものが1つだけ
CCA アルビ フランス

⑦ エレメント



エレベーターの天井 夏原晃子 大阪ドーンセンター



ステンドグラスの窓 フランス



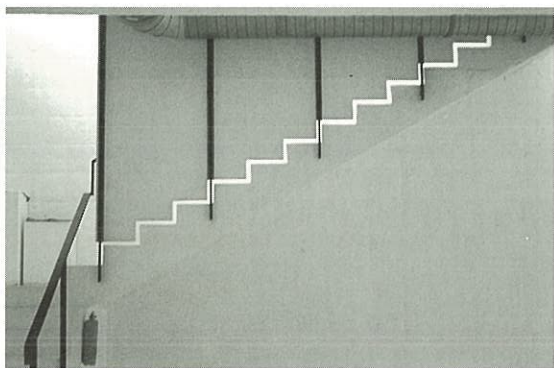
美しいカーテンの窓 ドイツ



階段は建物のアクセント ルーブル美術館 パリ



ホールの階段 ボン美術館 ドイツ



美術館の階段 バルセロナ



タビエス美術館の階段 バルセロナ

⑧ エLEMENT

信号、表示、電灯おまけにアルプスまで 富山市



信号と横断舗道
ダニエル・ビュランの広場
リヨン

放射状に広がる道
イスタンブール

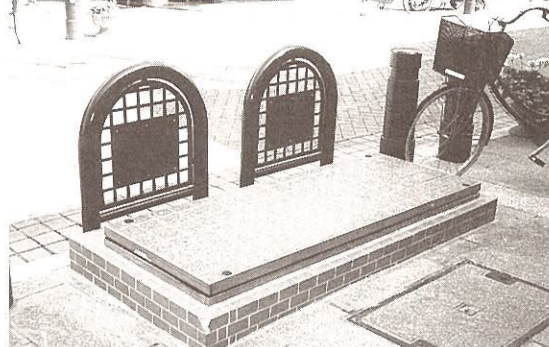


分別収集用ゴミ箱、色と形で区別 バルセロナ



石タタミの道 トウル市

電柱地下埋設用ボックスと柵 富山市



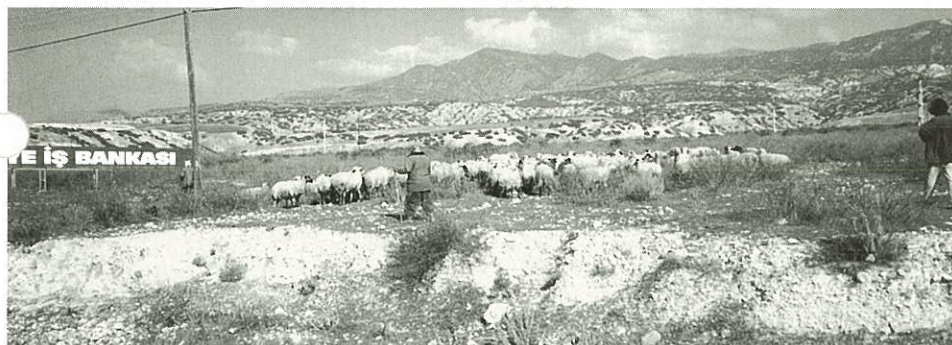
道路の柵、
2つ3つと連結させても使用
アルビ

レ・アル広場の建物と同じフォルムのゴミ箱 パリ

◎ 街の中のいろんなもの



レストランのしゃがれた看板 ドイツ



こんなところまで看板が アナトリア高原 トルコ



エッフェル塔は大きなモニュメント



クリスマスイルミネーション
シャンゼリゼ通り パリ



チボリの夜 コペンハーゲン



通天閣のネオンサイン 大阪



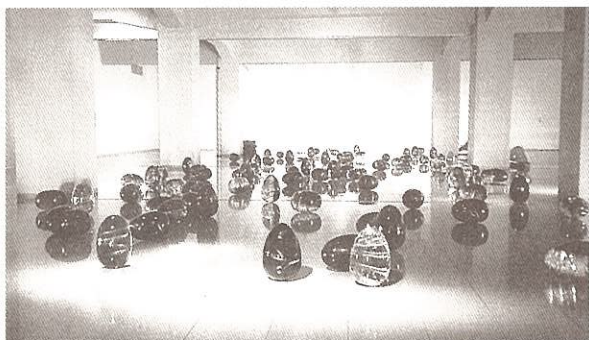
クリスマスイルミネーション アルピ



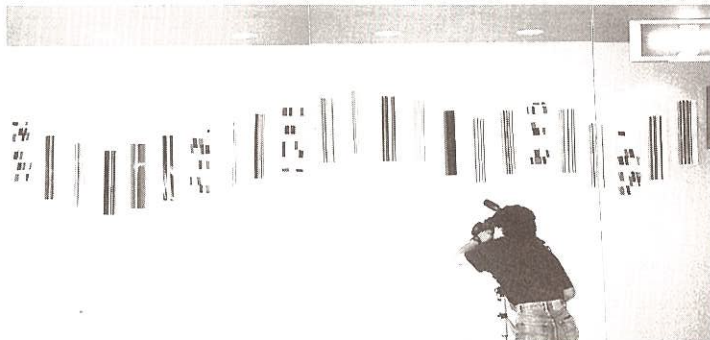
夜の遊園地 パリ

⑩ 場のアート

消えてしまう時間の作品がある場の空間をつくる事ができる。



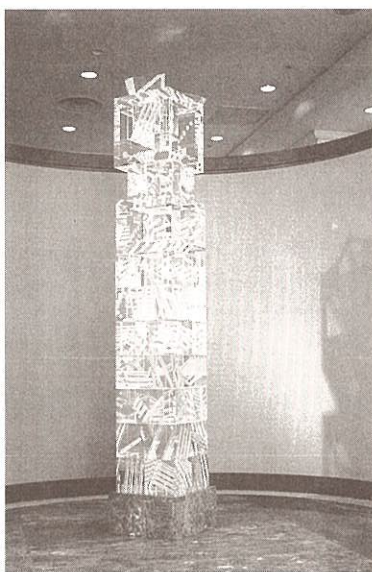
照明とのコラボレーション 夏原晃子 大阪



壁面造形 夏原晃子 学研都市 奈良



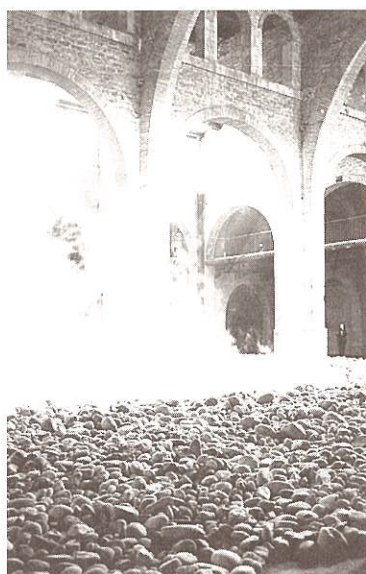
作品の光と影 夏原晃子
アルピCCA フランス



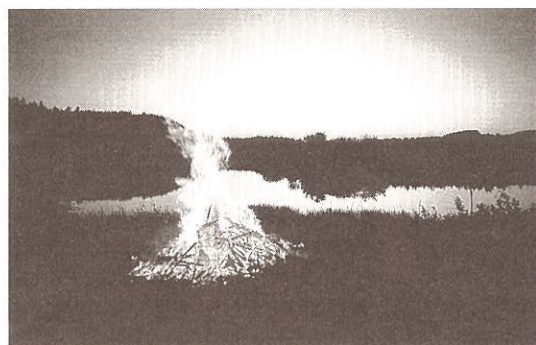
モニュメント 夏原晃子
新羽田空港 東京



ビデオによる虚像と実像の交差 夏原晃子 大阪



霧の造形 ボルドー CACP フランス



白夜祭りの夜の巨大な焚火 デンマーク



万灯籠 近江八幡

4. 街を育てるための、住民の美意識、意識変化からの環境の変化

そこでパブリックアート、パブリックスペースは「私のもの」である。「あなたのもの」である、「地域に関わる人々」のものであることはお解りいただけたでしょうか。

今まではどこから、その形だけ、ひっばってきたようなマネたようなもの、外国の有名な作家のものなどであった。何を選ぶかでほんとに我々の場に良いのかどうか、見極めるのは、担当者の責任の重いところであり、それには個人個人が、その知性にふさわしい感性を高める以外にはない。しかし、急にセンスアップは出来るものではないが、今日、今から毎日少しづつ心がけることで少しでも良いパブリックアート、パブリックスペースへの関心を持たせるようになればいいと思う。例えば、空の色、雲の形、毎日通っている道端の植物は日々変化する教科書だ。目に見えるもの（大きいもの、小さいもの、視覚を遮るもの、見通せるもの etc.）、耳に聞こえるもの（音楽、騒音、雑音、人の声 etc.）、触るもの（あたたかい、冷たい、さらさらしている、なめらか etc.）、味わうもの（おいしい、苦い、すっぱい etc.）、臭うもの（くさい、いいにおい etc.）など五感の他に、体感、なんとなく体全体で感じるもの、例えば、CDがひろいきれない昔のLPの音や、デジタル写真にはない銀板写真のかんじなど科学だけでは表現できないものや思覚などの感覚も含め、いろんなものを感じる事に鈍くなりたくない。

ゴミはない方がいい、それなら手をのばして拾いたい。ゴミは出したくない。次の世代の人々のためにも少しづつ良い環境を残したい。地域の人々の多くの財産を使って不要なものを造るより、地域の人々が誇れるような場を育てたい。これは、仕掛ける側だけでなく、受ける側にも責任がある。

勇気を出して、声を出して“あなたもそう思う？”と話しかけよう。知性と感性は両輪でなければ真の美はないのだから。

1. 都市におけるアートの意味

「アート」は人の想い（精神）をカタチに作り替えて表現（語る）する技術と言えます。

そして、パブリックアートとは都市の精神・心そして顔を表現することができる技術です。つまり、パブリックアートとは社会をつくり、語る「アート」のことといえます。

■その都市、まちを語るもの

- ◇「アート」はそのまちならではの気概、精神、心、存在価値を語ります。その「語りたいもの」はまち固有の歴史、伝統、遺産のなかに見つけていかなばなりません。
- ◇「アート」は時代を生きる人々のメッセージを伝え、生活を伝え、地域の歴史や文化を伝えます。

■人の心を満たす、豊かにする

- ◇「アート」には創るもののまちに対するメッセージが込められており、みる人はそれを受け取ります。
- ◇「アート」が人々の生活になじむということは、まちに暮らす人々の価値観を表現しているということです。そういう「アート」には生き生きとした楽しい生活空間をつくる力があります。

2. まちにおけるアートの位置づけ

■空間の彩り

- ◇暗く、さびしくなりがちな空間が明るく楽しいものになる。
 - ◇機能本位で無味乾燥になるような空間に変化、動きを与える。
- 建築物、橋、道路などもともとそこにあるものを装飾することにより楽しい雰囲気をつくりだすことができる。

■まちのゆとり、豊かな表情をつくる、まちの魅力をつくる

- ◇センスのよい、やさしいアートはまちの空間を美しく、楽しく彩ります。それがまちの魅力につながる。

■「顔」「イメージ」の創出

- ◇とりとめて特徴のない空間、イメージの薄いまちをアートによって顔、空間の個性をつくりだすことができる。

■まちのメッセージの発信

- ◇まちの顔となる空間、まちが表現したい歴史性や心をアートに表現することで、広くまちのメッセージを発信することができる。
- ◇アートによりまちの空間のシンボル性、イメージ性を更に強化することができる。

対象とするもの

まちのポイントを演出する要素、まちの中の装飾的なもの、遊びごろがあるようなもの

①ストリートアート…装飾的なもの

- ◆彫刻、モニュメント、噴水、時計、ゲートなど

②ストリートファニチャー…機能をもつもの

- ◆ベンチ、くずいれ、街路灯、ツリーサークル、車止め、ガードレール、フェンスなど
- ◆マンホールのふた、灰皿など

3. アートの設置のデザイン方針

■親しみのある、愛着の持てるアートを設置する

- ◇やさしい、身近なアートを設置する。
- ◇ふさわしい場所にふさわしいアートを設置する。

■まちを彩る

- ◇まちのちょっとした要素を装飾したり、空間をアートで彩ることでまちの空間を生き生きと演出する。

■住民の心を表現する

- ◇岸和田の心を表現し、生活に密着したアートを設置する。

4. アートの設置デザインのポイント

■設置場所を工夫する

- ◇アートは設置された空間の「顔」となる。アートを引き立たせるだけの空間を用意する。アートを設置する「場」をつくる。
- ◇センスのよいものをセンスよく置く。
- ◇見え方、人の視線を考慮する。
- ◇安全性に配慮する。

■「場」「空間」「まち」をよく読み取る

- ◇設置される場の文脈を読み取る。地域をよく理解し、表現したいことを明確にする。

■表現を工夫する

- ◇施設の部分を装飾する、あそびごころのあるデザインをする。全体を考えて計画する。
- ◇機能のあるものを装飾する。
- ◇そのまちならではの意匠を見つける。まちの記憶の中に探す。安易な歴史性の表現をしないよう慎重に計画する。

■人の行動を誘発するようなしかけをつくる

- ◇触れる、遊ぶ、座るなどの人の行動と関連性をもたせる。
- ◇動いたり、変化したり、音が出たりするアートを設置する。
- ◇仮設的、インスタレーションなどイベント性をもたせる。

これまでのまちのアートの問題点

都市の魅力づくりとなるはずのパブリックアートが「彫刻公害」や「日本全国どこに行っても同じ彫刻だらけ」と評価されたり、壊されたりよごされたり、市民感情に合わず市民からクレームをうけるなど「不幸なアート」となっている。これはパブリックアートに対する誤解と、彫刻の安易な設置など行政のパブリックアートに対する取り組みの姿勢に原因があると考えられる。

- ①これまでの自治体のパブリックアート関連事業の考え方といえば、従来美術館などで鑑賞されてきた質の高い彫刻作品を、人々が自由に行き交える公共空間に設置・展示して、
 - ◆一般市民の芸術作品鑑賞の機会をつくる
 - ◆それを通して地域における文化芸術の啓蒙、普及、振興をはかる
 - ◆芸術作品のまちかど展示によってまちの景観の質的向上をはかるというものであった。

- ②このような行政のパブリックアート設置に対する姿勢が
 - ◆市民の要求と違ったり、感情とかけ離れたものを設置してしまい、クレームがつく
 - ◆設置場所の立地条件の検討不足、判断ミスなどから空間と脈絡の薄いアートを導入して、彫刻公害を助長する
 - ◆設置後の維持管理がなされないといった問題を引き起こしている。

- ③こういった問題の原因は
 - ◆まち、空間を考えて、企画・計画をしたか
 - ◆パブリックアートと鑑賞するアートとを混同していないか
 - ◆作品が良好に設置されているか
 - ◆作品がよい状態で管理されているかといった点にあると考えられる。

5. アート（作家・作品）との関わり方、行政の取り組み

アートをまちに取り入れるということは単に広場、通りに彫刻やモニュメントを設置するということではありません。

アートはメッセージ性が強く、存在感が大きく、個性の強いものです。アートは周囲の空間に強い影響を及ぼします。ですから、公共空間に設置するアートは設置に対して責任が大きいことを十分に認識せねばなりません。

■作家、作品の選択にあたっては思い入れをもつ

- ◇いわゆるパブリックアートの専門家であったり、よその自治体でよく製作している、住民の寄贈といった安易な選択をしない。
- ◇どういう作家なのか、どういうメッセージを持っているのか、どんな表現が得意なのか調査検討の上、作家の選定をおこなう。
- ◇大御所や著名な作家だけでなく若手や異分野からの登用など新しい可能性も考える。
- ◇公共空間に設置するのにふさわしい「メッセージ」、作品を選ぶ。

■行政側が明確なビジョンを持って作家に説明すること

- ◇何を伝えたいのか、どんなまち、空間なのか、を明確にする。
- ◇行政がまちを十分理解し、かつ、目的意識をもつこと。
- ◇維持管理や予算、安全性など現実的な事項も説明し、お互いに知恵をしばってよりよい解決の道を探る。

■作家と議論を尽くす

- ◇ディスカッションにより新しい表現方法の可能性を追求する。
- ◇イメージの共有化をはかる。
- ◇お互いにいろいろなアイディアを戦わせる。

■必要があれば製作に立ち会う

■日頃からいいものを見分けるセンスを磨く

■住民とかかわる

- ◇住民の手作りアート、製作への参加。
- ◇地域住民参加によるパブリックアート選定。
- ◇住民参加によるメンテナンスの可能性をはかる。
- ◇住民と一緒にアートの公共性について考える。
- ◇住民と芸術家が交流する機会をつくる。

まちとアートの動向

①ファーレ立川（立川市）

再開発でできた新しいまちであるため、歴史がなく、まちのアイデンティティというものが欠けていた。そこで、まちの顔づくり、イメージづくりにパブリックアートを積極的に活用した。

メディアなどに取り上げられる機会も多くパブリックアートがまちの情報発信の役割を担ったひとつの例である。

- ◆アートに機能をもたせる
- ◆建物との一体化
- ◆作家とプランナーとのやりとり
- ◆住民参加による広報活動および維持管理

②パリ大改造計画

「グラン・プロジェクト」における「パリの新しい顔づくり」

- ◆ルーブルのピラミッド、親凱旋門など建築物のアート化
 - ◆デファンス再開発地区のアートによるまちの空間づくり
- など、まちをアートで彩ることでパリというまちをさらに魅力的なものにしている。

③メディアの中のアート

パブリックアートがメディアに取り上げられることはしばしばある。アートの新たな取り組みや都市でのアートの問題など、問題意識を持って各自理解して欲しい。

6. ストリートファニチャーの役割

ストリートファニチャーは都市の様々な場所に存在し、都市の快適な利用、わかりやすさに寄与し、人々の憩いの空間を演出します。

ともすれば機能優先になり、設置主体が思い思いにいろいろなものを無秩序に設置するためまちは繁雑で見苦しいものになります。これでは快適な都市空間とは言えません。

逆に秩序を持って配置され、質の高いセンスのよいデザインをされたストリートファニチャーは快適な都市空間を形成し、また、地域の地域らしさを表現します。

7. ストリートファニチャーのデザインのポイント

■設置のデザイン

- ◇人の賑わい、行動を演出するような機能をもたせる。
- ◇安全性、機能性に配慮する。
- ◇統合、複合化できるものは合体し、整理を心がける。できるだけ数をへらす。

■本体のデザイン

- ◇まちなみと関連性のあるデザインをこころがける。
- ◇同じ空間にあるストリートファニチャーはデザインに関連性をもたせ、空間の特徴を出す。
- ◇誰もが使い易い、やさしいデザインをする。
- ◇安易な表現は避ける。
- ◇設置場所を生かした表現を考える。
- ◇賑わい、安らぎをデザインする。

■維持管理のデザイン

- ◇いつまでも美しく良好な状態で利用できるようにする。壊れたり、汚れたりしたまま放置しない。
- ◇破損したとき、いつでも補充できるようにしておく。

■取り組み

- ◇設置主体の連携
関係部署（道路、公園、建築など）や関係機関（NTT、大阪府警、関西電力など）と連携する。
- ◇地域で管理できるしくみをつくる

